

中間報告書に対する意見
(主体毎)

目次

1	市民	
(1)	意見概要(一覧)	1
(2)	意見(全文)	
a	提出者A	2
b	提出者B	3
c	提出者C	7
d	提出者D	8
e	提出者E	9
f	提出者F	10
g	提出者G	13
2	学生：学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム学生委員会「いしてまい」	
(1)	意見	15
(2)	調査概要	18
3	子ども：青森県立弘前高等学校JRC部	
(1)	意見	22
(2)	調査概要	25
4	コミュニティ	
(1)	弘前市町会連合会	
ア	意見	31
イ	調査概要	33
(2)	特定非営利活動法人コミュニティネットワークキャスト	
ア	意見	38
イ	調査概要	41
5	事業者	
(1)	公益社団法人弘前法人会	
ア	意見	45
イ	調査概要	48
(2)	公益社団法人弘前青年会議所	
ア	意見	52
イ	調査概要	55
6	議員・執行機関	
(1)	「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見について(写)	
ア	議員	
a	意見	62
b	会議録概要	65
イ	執行機関	
a	意見、修正案等	75

H26. 1. 27 (月)

弘前市自治基本条例市民検討委員会第 25 回会議参考資料 2 【審議前】

中間報告書に対する市民の意見(一覧)

※ 提出方法記号凡例 アイデアポストの設置場所 AP1 = 市役所本庁舎1階 AP2 = 岩木庁舎 AP3 = 相馬庁舎 AP4 = ヒロロスクエア AP5 = 市民課城東分室			提出者	A	B	C	D	E	F	G
			受理日(H25)	9/20	10/16	10/21	10/21	10/22	11/15	11/29
			提出方法	AP1	AP1	郵送	AP4	郵送	持参	持参
			住所	×	×	×	×	×	○	○
			氏名	×	×	イニシャル	×	×	○	○
No.	意見区分	意見概要	電話番号	×	×	×	×	×	○	○
1	【条例制定】	この条例は、廃案とすべきである。	6	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2	【条例の最高規範性】	最高規範性を与え、他の規定(条例)に整合性を求める規定を盛り込むべきではない。 ⇒ この条例に最高規範性を与える法的根拠なし	2			✓			✓	
3	【市民参加】	直接民主制としての市民の政治参加は違憲である。 ⇒ 参加できる人の声が優先され不平等	2		✓	✓				
4	【市民の定義】	日本国籍を有する者(住民)に限定すべきである。 ⇒ 外国人、市外の人々を含めるのが×	外国人×	7	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	【権利の付与】	外国人、市外の人々、未成年者には、権利を与えるべきではない。 ⇒ 市民の定義:「選挙権を持った成人であって、納税の義務を果たしている居住民」に限定すべき = 外国人、市外の人々、未成年者を含めるのが×	市外の人々×	5		✓	✓	✓	✓	✓
			未成年者×	5		✓	✓	✓	✓	
5	【主体】	事業者、コミュニティを主体とすることに反対である。 ⇒ 市外から大量に流入すれば、住民投票の結果に影響する危険性がある。	1						✓	
6	【住民投票】	安易に導入すべきではなく、削除すべきである。 ⇒ 住民が話し合い、別の条例で定めることもできる。 (定める場合の投票権は、日本国籍を有する成人)	3			✓			✓	✓

市民の意見（全文）

○ 提出者 A（平成 25 年 9 月 20 日収受）

自筆のもので提出があったため、弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課でデータ化したもの

自治基本条例中間報告書に対する意見

まず一市民として反対致します。そもそものが今まで条例など無くともやってこれたという事。条例が無い事で衰退した自治体があったでしょうか？ありません。それが証明です。むしろ有ることで市民、すなわち日本人（日本国籍を有する）にとって非常に危険です。

なぜなら、『市民』という言葉が日本国籍を有する者と定義づけられていないからです。市内に居住する全ての者、となるといくらでも乗っ取る気満々の輩が堂々と地方行政に参加でき、外国人に有利なようにまちづくりを進められてしまいます。このことを考えますと、外国人参政権の布石のように思えてなりません。

そもそも、居住することと政治参画することは別物です。条例がなくとも考えていることを伝えサービスを受ける事は、一定の制限がありますが可能です。その自治体、ひいては日本国に対する義務や責任を国民と同等に背負っていない外国人の地方行政を含む政治参画が制限されるのは当たり前であり、これは差別でも何でもありません。むしろ外国人であるのに国民の為のセーフティーネットである生活保護など受けれる今の日本が異常であるといえます。世界中見ても自国民より外国人が優遇されるのは日本位です。ある意味で差別されているのは日本国においては日本国民です。外国人はあるべき所へ区別されるべきでしょう。

より良いまちづくり、市民が幸せにという事であれば、これ以上の過度な外国人優遇をやめ、未来ある日本人の子供達の為にも『市民』の定義を日本国籍を有する者でなくてはなりません。

ちなみに、外国人への過剰なサービスをしている自治体はもれなく治安は悪化、(2)のアの③など不可能です。

近年の弘前市は異常に韓国と近いですね。税金でドラマ誘致、多言語などといって小学生へ韓国語教育を推し進めようとしたり、ローマ字以外の看板も不愉快です。ローマ字があれば十分です。必要以上にこびないで下さい。

世界的に日本をおとしめるディスカウント・ジャパンをし、千年恨むとまで言っている韓国はもはや敵国です。台湾ならまだわかります。親日国ですから。弘前を泥棒、強姦魔の巣にしないで下さい！仏像もいつ盗まれるかわかりませんよ！

弘前を愛する一市民より。

○ 提出者B (平成25年10月16日收受)

自治基本条例について意見があります。

まず、なぜ市政に関わる重大な条例なのに、その市を支える住民税を納税していない市外に居住する者や外国人にまで権利を与えるのか？

権利は納税という義務を果たして初めて得られるものです。だからこそ納税している住民に発言の権利が与えられるのです。これは切っても切り離せません。

それなのに納税すらしていないのに無責任にも市民ではないものや外国人、学生にすら権利を与えるという、これほど愚かなことがあるのでしょうか？

学生にも、というのはある意味で小学生まで含まれるような書き方です。未成年においては行政においてバランスのとれた判断をするには未熟で、本来の選挙権はないばかりか、そもそも直接民主制の政治参加は違憲です。そして地方の行政を甘く軽く見すぎています。もしも取り組むべきならば選挙権を持った成人でなおかつ納税の義務をはたしている住民であるべきなのです。

ましてや外国人に権利を与えるなど違憲そのもので国民主権の原理に違反しております。そこで住民投票などしてみようものなら、すぐさま中国人や韓国人が大挙して移住し、市を乗っ取るでしょう。要はこれは外国人参政権問題と同じことなのです。

彼らはルールを守らず環境破壊しその国の文化歴史を守らず破壊し自分たちの町を立ち上げてその土地の町並みは消えるでしょう。

その国の言葉を覚えずそこらじゅう中国語韓国語だらけにし、その町のよいところは失われ、ミニ中国や韓国ができあがります。

すでに山形県には韓国人を引き入れたばかりに道の駅が山形県の特徴は一切ない、韓国の道の駅があります。まさかと思うならお調べになってください。

それでなくとも特定の外国人への過剰ともいえるサービスの数々。日本や天皇陛下を世界的に貶め侮辱しているのにも関わらず、友好のみをアピールしている昨今の動き。表記や案内などの特定外国語にも辟易しており、税金を投入してまで媚びるのはいい加減にしたほうがよろしいかと存じます。世界中で日本人の子供はいじめられております。世界的にもそちらの異常な日本いじめは認知されており、その逸脱した異常ぶりは嫌悪され排除されているのです。日本の一地域が仲良くしようとしても住民は決してそうは思っておりません。

そもそも、住民参加という聞こえはよろしいでしょう。ですが実際に参加するのは数が限られているはずです。

なぜならみんな仕事や日々の生活が忙しいので、だから選挙で市長ならびに市議を決定しているのであって、彼らこそが本当の意味での市民代表なのです。

日本国憲法では代表民主性が原則です。よって、代議制を定めた憲法に反しており、住民の

直接の政治参加はこちらも違憲です。

直接の民主制においては声の大きいものや時間的余裕のある者の考えが優先されて不平等な結果になります。法的秩序を守り、本当の住民の利益を守るにはこの条例は廃案とすべきです。

市民が直接参加できるという触れ込みによって、結果一部の市民ですらない人間が市政を決定付けるなど愚の骨頂。不公平極まりなく、民主主義の間逆に他ならない悪条例と言わざるを得ません。

そしてよく言われる多文化共生、こちらも先ほどお話しましたが、その土地にはその土地のよさがあるのです。わざわざ混ざりあう必要などないのです。ましてここは日本という単一民族国家。移民大国アメリカとは法の整備もまったく違い、対応も毅然とできるのです。日本においてはそのような対応が期待できないばかりか、だだをこね、暴れられたらトラブルを避けるためにもおとなしく引くでしょう。でも外国人には引くということは、こちらが勝ったのだからさらに強く出てもよいのだ、ということの意味するのです。

もし外からきて、一緒になるべきだなどという人がいるのなら、それは自分たちのところへお戻りになれば解決することでしょう。外国人に日本的な考え方が通用すると思うほうが間違いなのです。

それに、なぜこちらが相手に合わせて変容させる、もしくは受け入れて共生する必要があるのか。

たとえばフランスへ旅行したのにまるで中国のようで中華風の建物に中国語が溢れていたらがっかりしませんか？同じです。その町の本当のよさを打ち出すべきです。日本なのでから日本らしさを出さずにどうするのでしょうか？

外国では外国のルールがあります。郷に入っては郷に従えです。

その国へ行ったらその国の言葉を覚えてルールに従うべきです。

そして今問題になっている生活保護の外国人へ与えている問題とも関わってきます。

本来なら日本人のためのセーフティネットが外国人へ与えているためにそれを目当てに群がっている外国人がさらに増え、例えばこの条例で外国人へ手当てを渡すという条例がまた住民投票で可決したらどうなります？私たちや私たちの大切な家族や子孫のために納税している市税がそちらへ流れていくことが懸念されます。

もはやすでに生活保護が外国人へ与えるのが当たり前となっていて、ましてや外国人奨学生や研修生、留学生への生活費や学費なども税金でまかない医療費すらも払っていないはずの国民保険から出ているのです。

まして在日韓国人ですら外国人として無償で留学生扱いの気前のよさ。となれば条例で手当てを与えることなど朝飯前です。

また、情報の共有についてです。本来の住民に対しても適正に行われるべきことですが、外国人や居住外の人間まで参政権を与えるようなことがあれば個人情報のみならず重要な情報の漏洩にもつながりかねないのです。

そして、自治基本条例が制定されてしまったところは軒並み治安が悪くなってきているようです。先ほど申し上げた外国人、または左翼的なスパイ活動を行う勢力が幅をきかせ、それこそ安全安心な町は失われてしまうでしょう。

何よりも恐ろしいのは、上手にオブラートに包み、これらの危険性を一切わからないようにして市民などに對外アピールしているということです。

市民の定義からすでにおかしいし、そもそもこのような法案の必要性がまったく無いのになどと困るのかのように大々的に耳障りのよい言葉で並べている。

無いと困るのならばもっと早くからトラブルや事件があったはずですがそんなものはなかった。そして条例のブームがここ数年いきなり出てきました。

それはやはり国会に外国人参政権ならびに人権擁護法案が廃案にされているからこそ、ならば地方から国と分断して自治という名の乗っ取りをしようとしている勢力によってどんどん広がっていると思わざるを得ないのです。

そうなると国と分断され、その自治体は日本ではなくなることも視野に入れないといけなと思います。

最高規範とする、という文言も入れるところもあるようですし、そうなると日本国憲法は適用しない、だから自治体独自の憲法を作ろうという動きもあるかもしれません。

もちろん納税していない、なんの義務も責任も果たさない学生から市外住民（ということは国外から来て活動しているだけでも可能）、外国人がそのようなことを決められるということです。

ここまで安易に性善説でくるとお人よしどころか日本国民としての意識すら欠けていると危惧しております。いまや戦争をせずとも国を乗っ取れる時代になったのか、と。

チベット、東トルキスタンや内モンゴル、台湾は中国に乗っ取られているのです。

そして新たに見つかった資源と昔からあり今なお発展している技術をもつ経済大国日本。水源地も豊富で歴史があり人間性も世界から認められる世界最古の国であるわが国は、狙われているということを念頭においたほうがよろしいでしょう。

現に土地が中国や韓国資本から買いあさられているのはご存知でしょう。

自衛隊駐屯地から森や山、水源地。どんどん買われ、また巧妙に日本人や通名で日本人に成りすました韓国人によって転売されています。

日本において日本人が虐待され、強姦され、殺害される事件は後を絶ちません。

日本人犯罪者ももちろんいます。が、中国人や韓国人の母数に対しての犯罪率の高さは目を

見張るものがあります。そして凶悪犯罪率の高さ。ある年などは死刑囚に日本人が一人もいなかった年もあるのです。

そのような人たちが力をつけることができ、そして彼らはどんどん仲間を呼び込むので増えていきますと日本人が弱体化するのは目に見えてしまいます。

現に移民政策をした国々は次々と失敗であったと発表、地元住民との軋轢が増え暴動やデモも増えています。

そろそろ日本人は気づくべきです。

未来の子供たちが幸せに暮らせる社会を作れるのは今の私たち大人なのです。

納税も居住もしていない本来なら口を出すべきでない人間が市政をコントロールできてしまうような危険な条例を通すのは絶対にお止めください。

廃案にすべきです。

なによりも未来ある子供たちのためにも、あってはならない条例であることは確固たる事実なのです。

納税の義務を果たしている一市民からの意見です。

今ならまだ間に合います。

どうかご熟慮くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○ 提出者C (平成25年10月21日收受)

弘前市役所自治基本条例担当者様

本条例案では、市民の市政への参加が規定されております。つまりこの条例案は直接的な民衆の政治参加を取り入れたものということになります。しかしご存知のように、日本国憲法では代表民主制が原則であることが明記されており、直接民主制としての市民の政治参加は憲法、もしくは国会の代表者が規定した法律で認められたもの以外に、自治体が条例で定めることは憲法違反となります。国民の権利を守るための憲法がなぜ代表民主制を原則としたかという、直接民主制では声の大きい者、時間的余裕のある者の考えだけが優先され、不平等な結果をもたらすからです。法的秩序を保ち、住民の利益を守るためには、このような制度を主な目的としているこの条例案は廃案とすべきと考えます。

その他の問題点ですが、市民の定義があまりに広すぎます。市政に参加できる市民に外国人や区域外の住民まで含まれていますが、この事実を住民に広く知らせ、外国人などを市政に参加させてもよいかどうか、その是非を問うたのでしょうか。もしまだそのような措置を取っていないならば、まずそのような措置を取ってから案を作成すべきです。私の考えでは、市政に参加できる市民に外国人を含めることは、国民主権の原理に違反します。また区域外の住民に参政権を与えれば、住民の意思に反して市政が動かされる恐れがあり、「住民の意思に基づいて地方自治が行われる」とした住民自治の原理にも違反します。

情報共有も問題となります。本来の住民に対しても情報共有は適正に行われるべきことは当然ですが、ましてや外国人や区域外の住民にまで情報共有することは、場合によっては重要な情報の漏えいにもつながりかねません。

以上の問題点をこの条例から排除するため、市民等の定義を日本国籍を持つ住民に限定するようにしてください。

住民投票についても定めてありますが、住民投票という制度はそう安易に導入すべきではありません。どうしても必要な制度かどうかということをしつかりと住民同士で話し合ったうえで、改めて別の条例で定めることもできます。今回は住民投票については削除するようお願いいたします。もし本条例案に住民投票について規定するとすれば、投票権者の問題が出てきます。国民に主権があることや、政治についての判断能力などを考慮して、ここでは日本国籍を有する成人と明記してください。

さらに、未成年にも直接民主制による参政権が与えられています。しかし前述した通り、そもそも直接民主制が不適切である上に未成熟な者に参政権を与えるというのは地方行政というものを見すぎています。自治体に取り組むべきは議会の活性化と議員の資質向上であり、法的秩序と常識を逸脱した方策を取るべきではありません。自治基本条例には最高規範性が与えられていますが、他の条例と何ら変わりのない条例に最高規範性が与えられる法的根拠はありません。最高規範は日本国憲法です。本条例でも、最高規範性を与え他の規定に整合性を求めるというような、法的秩序を無視した規定を盛り込むべきではありません。

以上、これほどの問題点があるこの条例は、廃案とすべきと弘前市民として考えます。

○ 提出者D (平成25年10月21日收受)

自筆のもので提出があったため、弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課でデータ化したもの

今回、自治基本条例に関して意見を募集されているとお聞きしました。

以下、私の意見です。

まず、この条例を周りの人（市民）ほとんどが知りません。

かろうじて数名、新聞で見た程度です。そのような重要な条例、まず弘前市民に選挙の様に、必要か否か、投票で是非を問うべきです。それもせずにこそこそと動かすなどなると卑怯なのかと驚いております。私は必要は無いと思いますが。

そして次に、対象となる「市民」の定義の広さです。何故投票権の無い学生、納税していない市民ですらない人や国民でもなく本来口を出すべきでない外国人にまで参加できるのか非常に怒りを感じます。本来必要ではない条例であるばかりでなく、市民以外がその地方自治に関わり口を出すなど有り得ません。市民を軽視しているのでしょうか。税金（しかも他よりも高い割に全く市民のために使っていない）を払っている市民にこそやはり是非を問うべきです。

委員会があるようですが、そもそも私たちはこういった仕事（市政）をまかせる為に市議を選んでいるのではないのですか？市民のみならず市議すら要らなくなりますね。少なくともこの委員とやりに私たちの意見を代表してもらった覚えは一切ありません。即刻この条例は無かった事にして頂きたい。いい加減にして下さい。

そもそも必要ならば、市民投票をして下さい。

納税しているのが馬鹿らしい。

○ 提出者E (平成25年10月22日提出)

結論から言うと自治基本条例に絶対反対です。日本の将来が不安です。
わたしたち日本人の生活が不安です。
今現在と同じように、仕事ができるかどうか不安です。はっきり言って、
未来の子供達が大人になったときに、外国人の意見で条例が決まってしまうのは
おかしいし、わたしたち日本人の意見も希望も、通らないのは、ひどい。

わたしたちの知らないうちに、自治市民条例が決まってしまう。こんなやり方ってないと
おもいます。決まってしまうえば、外国人でも、国籍問わず、未成年だって、住民投票が
できてしまうことになる。正直に言うてしまえば、何もしらない子供に、
教育してしまえば、
言いなりですものね。過去の歴史を振り返って見ても、簡単に言えば、教育と称して、国民個人の意思意見を
ころしてしまい、言いなりにさせる。数多の尊い命が、それによって、犠牲になっていった。
ゆるされざる事です。

地方がわかれ、日本が、ばらばらになってしまう。外国人が、そこにつけこもうと、
乗っ取ろうとしており、日本人が、日本が、行く果ては奴隷化、殖民化してしまう。
わたしは反対です。

○ 提出者 F (平成 25 年 1 月 15 日提出)

自治基本条例 (中間報告) への意見

1 全般

自治基本条例 (中間報告) への意見を、自治基本条例の背景・狙い及び生駒市の例を述べた後、弘前市自治基本条例 (中間報告) に対する具体的反対箇所について述べる。

意見を述べるに当たり、
、反対意見は誠に忍び難いことであるが、弘前市の健全な発展及び愛する日本国解体を防ぐため敢えて申し上げる。

2 自治基本条例は国家の土台を根本から浸食していく

(1) 自治基本条例制定の提唱者

自治基本条例制定の提唱者は、法政大学 松下 圭一 名誉教授である。

同教授は、日本共産党が目指した暴力革命が、日本では不可能と悟った後に、下からの革命、即ち「日本解体は地方から」を唱えた者である。

同教授は、「市民自治の憲法理論 (1975 年 岩波新書)」で、自治基本条例とはいかなるものかという理論を述べている。同書表紙扉内側に「憲法は国家のものか、市民のものか。(略) 市民こそが憲法理論をつくる主体である。・・・市民自治から発する文節政治システムと、基本的人権を核とした国民の政府への機構信託を構想することによって、国民主権の発動を目標とする憲法理論の再構築を提案する。」とある。

八木秀次氏によれば、国家を切り離した地方自治構想を二重信託論と言い、地方自治権の根拠を、国家伝來說を基本に地方自治は制度的に憲法で保障されているとする、即ち「国家主権があつて、地方自治権がある」とする、今日の憲法学者、行政法学者のほとんど全てが認める憲法保障説に反する異端の学説であるという。

(2) 自治基本条例の普及推進組織

公益財団法人地方自治総合研究所が、松本 圭一教授の理論を普及推進している組織である。そのキャッチフレーズは、「分権改革と地方自治体」「多文化共生のまちづくり」「効果的・効率的に地域を経営」・・・等々です。

平成 12 年頃から、全国の市町村長や市町村議会議員の地域経営力を高めるための研修などと言って、あたかも一般的な人材育成機関のように装い、松本教授の理論を教示したのである。

その教義は、国家否定・自治体独立のイデオロギーであり、市民が自治体の首長・議会を設置するなどという主客転倒、自治体行政の全てに市民の意見を採り入れさせようとする市民主権なるものを振りかざすものである。

このような異端の理論をまるで当時流行の行政改革という先進的な政策だと思ひ込み、研修を受けた首長や職員が自分の自治体に持ち帰り、施策して展開させようとしたのである。

そしてこれらを支持する市民 (所謂左翼的プロ) が、公募市民として協議会のようなものに参加し、政策立案から、予算編成、監視機関まで介入するシステムが作られていくのである。

その理論を実現化した政策名は、「市民参加条例」「まちづくり条例」「市民協働条例」「環境条例」等、・・・・条例と名のつくものすべては「自治基本条例」と同類である。

3 奈良県生駒市の例（産経新聞記事による）

(1) 自治基本条例の成立と問題の表面化

生駒市は、平成15年10月から自治基本条例を制定する動きが始まった。

21年6月に成立した同条例は市政運営の基本理念や市民、議会、行政の「協働によるまちづくり」の基本ルールを定め、市の条例の頂点に立つ「最高規範」「自治体の憲法」と位置づけられている。

「自治推進会議」は、基本条例の趣旨や目的などの周知や、基本条例の適正な進行管理、企画立案などを行う組織として21年8月に発足、条例に詳しい大学教授を中心に10人のメンバーからなり、基本条例をめぐる市の施策の事実上の司令塔として機能していた。

同市では、基本条例にあった市民投票条項に基づき、具体的な取り決めに細かく定めた「市民投票条例案」審議において、市民投票権を永住外国人にも与える方向での議論が進められていることが明るみに出ると、事実上、外国人に地方参政権を付与するものだと批判を浴びた。

(2) 「自治推進会議」の違法性の可能性

「自治推進会議」について住民監査請求が出され、市の監査事務局は議会の議決なしで、市の自治政策の一翼を担ってきた同会議を地方自治法に違反する組織だと認めたため、法的根拠のない組織への公金支出の是非とともに、同会議や市民投票条例案の法的是非も、法廷で争われることになった。

地方自治法は138条4の3項で、自治体が審査会や審議会、調停、審査、調査などの機関を置く場合には、設置条例を議会に諮って定めるよう義務づけている。しかし、同市では行政機関の内規にあたる要綱で済ませ、議会に諮らずに進めていた。

生駒市以外にも議会の議決なしで同様の組織を抱える自治体は各地にあるだけに、早急な違法性の解消が求められそうだ。

(3) 生駒市長の経歴等

自治基本条例や市民投票条例などを推進する「山下 真市長」は、朝日新聞出身、同社を退社後、弁護士に転身し平成18年の市長選に出馬、4選を目指す現職市長に挑み、ダブルスコアで市長に当選した。37歳での市長当選は当時最年少だった。

市民投票の投票権を外国人に与えることに市民から多数の反対意見が寄せられた市民投票条例について、同市長は「国の地方制度調査会での住民投票の法制化の議論を待ち、議会に提案したい」と慎重姿勢を見せる一方で、依然、条例制定に意欲を見せている。

(4) 青森市では自治基本条例が流れた

自治基本条例をめぐる、首長側が議会に諮らずに「検討委員会」「懇談会」「市民会議」などの組織を立ち上げる手法は、同条例を制定した全国約200自治体の行政運営にも警鐘を鳴らすものと言える。

同条例にはこれまでも「国と地方との関係、法や行政秩序を壊しかねない」などという批判があった。例えば、同条例を「最高法規」と規程、他の条例より優位に位置づけ、既存の条例は同条例と整合を図るよう定めている。しかしながら、条例はどれも対等で特定の条例を優位に位置づけたりできないというのが国の立場だ。また、同条例にある「市民」の定義も「市内に居住するもの」だけでなく「通勤もしくは通学するもの、及び市内で事業活動やその他の活動を営む個人又は団体」まで拡大、権利と義務、受益と負担のバランスを欠く規程が多い。

これまでの住民監査で青森市などで行政運営の違法性が指摘され、自治基本条例そのものが流れた

4 弘前市の「自治基本条例に関する事項（答申）」中間報告書に対する意見

(1) 全般

自治基本条例制定については、全国的に「自治体の憲法」との美名の下に、制定の動きがあるが、上記に述べた通り「国家の土台を根本から浸食していく」狙いがあり、「奈良県生駒市の例」と同様の問題が生起する恐れがある事から強く反対する。

(2) 具体的反対箇所

ア 総則（3）条例の位置付け ウ

「市は、他の条例、規則等の制定及び・・・・・・、この条例の趣旨を尊重しなければならないものとする。」とあるが、「他の条例を制定するに当たり、この条例の趣旨を尊重しなければならないものとする。」とする考えは、自治基本条例を他の条例より優位に位置付け、結果的に「その他の意見」で述べられている「自治基本条例に最高規範性を持たせるべきである」という、自治体の最高法規となる恐れが大きい。条例はどれも対等で特定の条例を優位に位置付けたりは出来ないという国の立場に反する。

イ 主体とその役割等（1）主体

（ア）市民、学生、子どもを主体としているが、学生の中で市内に居住し在学する者は良いが、市内に存する高等教育機関に在学する者には反対である。理由は住民でもない市外の人間や外国人も含まれるからである。

市の運営（行政）は、市民が選挙で選んだ「葛西市長」や「弘前市議会議員で構成される議会」によって決められなければならない。

子どもは未成年者であり、希望等があれば市民である保護者を通じて反映させるべきである。

（イ）事業者及びコミュニティをも主体としているが、反対である。理由は、住民投票の細部が将来規定された場合、本条例ではその都度、条例で定めるものとされているが、特定の事業者及びコミュニティが市外から大量に流入すれば、住民投票の結果に影響する危険性があるからである。特に、住民でもない市外の人間や外国人にも投票を認めれば、市民以外の事業者及びコミュニティに弘前市の行政が左右される恐れが生じる。

（ウ）主体を市民以外に拡大する狙いは、通勤・通学の名目で宗教及び活動団体を集結させ、外国人を集団移住させる便法であり、強く反対する。

多くの弘前市民は、仕事や生活で忙しい。だから行政を自分達が選挙で選んだ葛西市長及び弘前市議会議員に託している。市外住民や外国人が弘前市の運営に意見したり、活動家が弘前市の行政を混乱させる危険性がある「主体」の拡大には断固反対する。

ウ 住民投票 解説 a 《方針》ア

（ア）「住民投票制度は、・・・・・・間接的に政治に参加するという間接民主制を補完するもので、・・・・・・」とあるが、「補完」するのではなく上記（ウ）で述べた様に「間接民主制を蹂躪」するものである。

（イ）その他の意見で、「高校生、義務教育を終えた人など未来のまちづくりを担う人たちにも投票権を与えてもいいと思う。」とあるが、住民票もない人たちにも投票権を与えて、定数管理はどうするのか心配である。

○ 提出者G (平成25年11月29日收受)

自筆のもので提出があったため、弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課でデータ化したもの

「自治基本条例に関する事項 (答申) 中間報告に対する意見」

決して、市役所、市議会の答申の一方にかたよるでなく、様々な見解を勉強して最大の問題は「弘前市民」の定義。問題視に対抗なら「国籍が日本、住民票が弘前にあり、日本や弘前の先人たちから伝わり、後世に守り伝えるべき歴史・文化・伝統・人間道徳・常識を守り、教育を通じて全ての市民が共有し、外国人、弘前以外の市民でも、国籍を日本にし、住民票を弘前にし、それに敬意を払い、学び、真の日本人、弘前人たる市民に限定する。」決して右より考えでなく、護憲だが、幼い頃は「あすなる国体」の昭和天皇が土手町を車を日の丸を少し振り、日本＝太陽の本、神話では太陽神たる天皇に本来、権力をもたせない象徴天皇が日本歴史（最高権力が藤原氏、源氏、足利氏、信長、秀吉、家康）であり、日本の国旗・国歌や先人の歴史に敬意を払いつつ、「開かれた皇室」なら宮殿一般開放、園遊会にて手紙もいいが、神話上でも、日本の2600年の歴史の国旗・国歌、最高権力は全ての選挙に棄権しない国民主権ながら、廃止してはならない象徴天皇、外国人でも、そうした日本らしい歴史・文化・伝統に敬意を払い、学ばねば、国籍が日本、更に、弘前に住民票を移す全ての方々にそれを知る場（弘前や日本らしい守り伝えるべき歴史・文化・伝統）がなくなれば、協働する「市民」ではない。

一部のマスコミ・ネットの中には、例え、でっち上げでも、それをきちんと制定しないために、外国人や他地域住民から、守り伝えるべき歴史・文化・伝統がメチャメチャとか。（うわさやでっち上げだとしても）

市民会議にしても、18万近い全ての市民の意志は、本来、市長・市議会選挙に問われ、いくら意見しても、本当に全ての市民の意見かはわからないし、一般市民の中に本当に市のために意見するでなく、単なる名誉職、何らかの自分への利己誘導、報酬目的もあるかもしれない。やたらに金をかけ、イベント・市民会議やりすぎより、「真の日本人・真の弘前人」「人間道徳・常識教育」のために多少の安い料金でも、市、大学、NPO 講座やなかなか公募市民会議参加できない方々へ「私のアイディアポスト」（回答あり）をもっと広報やマスコミ宣伝、本来の市民の代表たる市長・市議会が市役所と共にもっと市民の身近にいるべきと思います。

住民投票も、前述の如く、単に「市民・議会・市役所」の協働なら、「市民」はその土地の守るべき歴史・文化・伝統や誇り伝えるべきものに何の愛着もない外国人・他地域住民にメチャメチャにされ、何のために日本の最高法規たる憲法にある「国民、市民の代表として正当に選挙の首長、議員による議会制民主主義」か、おかしくなる。議会の議決より、住民投票を上にするなら、投票率100%でなくば無効、市民会議も報酬目的・何らかの自分への利己誘導・名誉職でなくても、18万の全ての市民の意志は選挙（市長、議員）にあるから参考意見であり、むしろ、365日、24時間、倒れても市民の

声をきけとは言わないから、「私のアイデアポスト」(回答あり)の宣伝、又、市として、全ての市民へ何らかのアンケート、わかりやすいパブコメの求め方をすべきと考えます。「難しい言葉は平易にわかりやすく、なるべく、全ての市民の意見を求めるが、市民は前述の如くです。

民主政権下の自治条例制定が、それらを忘れ、大変な事の自治体(一部は沖縄)もありますが、むしろ、弘前の自治条例でそれをきちんと制定すれば、観光・民間レベルでは平和友好可能姿勢でも、堂々たる確固たる内容として、賞賛され、マスコミ、ネット、国政ですばらしい条例の一例にされるかも。ネット右翼の中国・韓国・北朝鮮を大嫌い人々からも。

中間報告書に対する意見

(学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム学生委員会「いしてまい」)

※ 本意見の作成・文責 弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課

○ 意見No.1

(1) 箇所 【5頁】Ⅲ1 前文(この条例の前文の例)

(2) 意見

子どもの権利という項目がいいと思ったが、大人が考えて子どもがいいまちではなくて、子どもが考えて大人が気付かされるといういいまち、弘前市にした方がいいと思った。

(3) 調査概要 20頁31

○ 意見No.2

(1) 箇所 【7頁】Ⅲ2(1) 目的《方針》

(2) 意見

市民の幸せな暮らしを実現するという表現は、漠然としていて、結局何か分からないので、もう少し具体的なものを示してほしい。

(3) 調査概要 21頁42

○ 意見No.3

(1) 箇所 【9頁】Ⅲ2(3) 条例の位置付け

(2) 意見

中間報告書(先ほど)の内容説明において、この条例の趣旨の尊重は、この条例の内容を色んなところに浸透させる意図であるということであったが、その方が理解し易かったので、そういった表現にすれば、より理解が深まると思った。

(3) 調査概要 21頁44

○ 意見No.4

(1) 箇所 【11頁】Ⅲ2(5) 基本原則《方針》

(2) 意見

住民自治の原則において、市民一人ひとりが自らの責任で取り組む意識を持ちとあるが、そのために市側は、どのように働きかけるのかという部分がわからない。

(3) 調査概要 21頁43

○ 意見No.5

(1) 箇所 【13頁】Ⅲ3(1) 主体《方針》ア② 学生

(2) 意見

弘前は学校が多く、市外から通う人も多いため、少子化の進展を踏まえれば、学生を主体として位置付けて、学生・若い人目線でまちをつくっていくことは、人を

呼び寄せたりすることもできるのでいいと思った。

(3) 調査概要 20 頁 29

○ 意見No.6

(1) 箇所 【13 頁】Ⅲ 3 (1) 主体<その他の意見> a

(2) 意見

学生やコミュニティなど、色々な視点を主体としているのはいいが、14 頁<その他の意見> a に記載しているとおり、障がい者や高齢者などのカテゴリー（主体）もあった方がいいと思った。

(3) 調査概要 20 頁 29・30

○ 意見No.7

(1) 箇所 【16 頁】Ⅲ 3 (2)イ 学生の役割<方針>

【11 頁】Ⅲ 2 (5) 基本原則<方針>

【25 頁以降】Ⅲ 5 (1)カ 市民力等の推進<方針>

(2) 意見

学生の役割の項目で、全国各地から集まっている、様々なことを学んでいる多くの学生たちがその特性を生かして、新鮮味のある提案をして、色んなことを実践できるという、学生力を発揮できるような環境をつくるのがいいと思うが、そういった環境があることを学生たちにアピールすることが大切ではないかと思う。

(3) 調査概要 20 頁 33

○ 意見No.8

(1) 箇所 【16 頁】Ⅲ 3 (2)イ 学生の役割<方針>

【17 頁】Ⅲ 3 (2)ウ 子どもの権利<方針>

(2) 意見

主体の役割等の項目において、市民だけでなく、学生や子どもに枝分かれして、それぞれの役割があることを示しているのは、すごくいいと感じた。

(3) 調査概要 20 頁 27

○ 意見No.9

(1) 箇所 【17 頁】Ⅲ 3 (2)ウ 子どもの権利<方針>、<解説>

(2) 意見

自分の住んでいるまちを好きになるとか、まちづくりの一員として考えていることはいいが、積極的に意見を吸い上げる機会を設けていく方法など、子どもを主体としたまちづくりは、どのようにして行っていくのかと思った。

(3) 調査概要 18 頁 8

○ 意見No.10

(1) 箇所 【18頁】Ⅲ3(2)エ コミュニティの役割《方針》

(2) 意見

協働については、一部を町会や市民に任せることであり、それによりさらにいいまちが作れるということを先日学んだが、それも踏まえて、コミュニティの役割の内容は、素敵だと思った。

(3) 調査概要 20頁28

○ 意見No.11

(1) 箇所 【30頁】Ⅲ5(1)エ 意見、要望、苦情等への応答義務《方針》

【33頁】Ⅲ5(1)キ 説明責任《方針》

(2) 意見

当市は、住みよいまちではあるが、道路整備に関する市民の意見などについて、反映されているのが見えないという面もあると思うため、どういう意見が出て、こういう解決をしたという情報が当事者以外にも分かるような対策を講じて欲しい。

(3) 調査概要 20頁37

○ 意見No.12

(1) 箇所 【38頁】Ⅲ5(1)コ 意見聴取手続《方針》

(2) 意見

ア 意見聴取手続の項目において、市民の方々に聞く、聞きに来る姿勢がいいと思ったが、その結果だけでなく、マイナス部分も含めて、始まりから終わりまでの経過に関する情報が欲しいと思った。

イ 意見を言えるのは確かだが、意見を聞く機会を増やすことが大切なので、地区毎や、大学に行って学生に聞くなど、細かく意見を聞いて、それをしっかりと生かしていけるということを表すことが大切である。

(3) 調査概要 20頁34・38

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項 (答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日 時	平成 25 年 11 月 19 日 (火) 19 時～20 時 11 分	
場 所	弘前市民文化交流館 多世代交流室 1 (ヒロロ 3 階)	
出席者 (11 人)	団体	(学生 : 7 人) 学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム 学生委員会「いしてまい」
	委員	(3 人) 佐藤三三委員長、清野委員、三橋委員
	担当	(4 人) 白戸市民協働政策課主幹、工藤係長、櫻庭主査、佐藤主事
団体に対する中間報告書の内容説明		平成 25 年 11 月 19 日 (火)、一括説明
調査概要		
(※ 市民協働政策課長挨拶)		
(※ 1 趣旨説明)		
(※ 2 出席者紹介)		
1 開会		
2 意見聴取		
(○団体出席者の出身地について 省略)		
(○団体名由来、活動内容等について 省略)		
(○中間報告書の内容に対する疑問等 省略)		
○中間報告書の中で、個人的に興味や関心を持った事項について		
1	・ 中間報告書の中で、個人的に興味や関心を持った事項は何か。	
(1)・2	・ 学生のまちづくり、学生が主体というのに興味がある。	
⇒(1)応答・3	・ これまでの委員会の討議において、まちづくりの主人公は誰かという話をかなりして、やはり 18 万人のこの弘前で、6 つの大学があることはすごいことで、大学生などの若い力を主役として入れていくということは、みんなから出た意見であり、この部分は、弘前の自治基本条例の特筆する部分なので、そこに関心を持ってもらい、主役として位置付けて良かったという感じがする。	
4	・ 最近、函館で学生とも交流して、学生が主体で動けるのは、やはりすごいなあというのを実感したが、自分の大学にいれば、みんなが主体にはなっていないイメージがあるので、もっと参加を促したいと思った。	
(2)・5	・ 前文に住みよいまちとあるが、冬場になると道路も狭くなったり、歩行者が車道を歩かないといけなくなったりというのがあり、そういうところに対する取組がされていないと思う。	
(2)・6	・ 夏場でも、細い路地では、車同士がすれ違う際、歩行者が通れなかったりとか、自転車危なかったりといった環境があるが、大学生は、ほとんどが自転車中心だと思うので、そういった歩行者などのことを考えた道路にしていけばいいと思う。	
⇒(2)応答・7	・ 住みよいまち、どういうまちを作っていくかということに興味、関心があり、まちづくりにおいて、道路整備が必要じゃないかということだと思う。	
(3)・8	・ 子どもの権利について、子ども目線で、自分の住んでいるところを好きになるとか、色々考えて、まちづくりの一員として考えていることはいいと思ったが、積極的に意見を吸い上げる機会を設けていくというのは、どういう形でやっていくのかと思った。	
⇒(3)応答・9	・ 子どもを主体、まちづくりの担い手に位置付けたことはいいが、子どもから意見を吸い上げる、子どもを主体としてまちづくりをするというのは、どうやってい	

- くかということだと思ふ。
- ⇒同上・10 ・自治基本条例は、大きな枠で、子どもを主役としていくという方針のようなもので、例えば、子ども議会や子ども会、まちの行事などで子どもの意見を取り入れていくまちにしていきたいということなので、子どもの意見を聞くという具体的なものは、この条例が出来た後、市民、行政が一緒になって考えてそういう場を作っていければいいと思う。
- (4)・11 ・自分は、大学で英語を勉強していて、留学などについて調べたいと思っていたので、国際社会との交流及び連携という部分に関して、弘前市で海外と交流があるのかなあと思った。
- ⇒(4)応答・12 ・物産販売に関する連携、協力や留学する者に対して、補助金を交付する事業などがある。
- (5)・13 ・市内で国際交流することは、できないのか。
- ⇒(5)応答・14 ・クリスマスの頃に、文化センターを会場にして、留学生と一般市民の人たちで、パーティーのような催しもあるし、参画センターには、留学生と交流するサークル活動のポスターなどが貼ってあるという感じだと思う。
- ⇒同上・15 ・他にも、広報ひろさきに着物の着付けに関する国際交流なども掲載されていたし、そういったことでは、かなりそういう機会はあると思う。
- 委員Q・16 ・国際交流というと、実際に海外に行つてという感じだが、市内に居ながらにして交流できないかといったのには、どういった意味があるのか。
- ⇒委員Q応答・17 ・海外への留学等は、経済的にも厳しいし、英語を苦手としている高校生などでも、市内で国際交流できれば、英語や外国に興味を持ったりすることができるのではないかと思ったからである。
- (6)・18 ・最近、ニュースでも騒がれているので、基本原則の項目にある情報共有の原則に興味があつて、情報の共有をしてはいけないのが個人情報だというのは分かっているが、知識不足で、まだ、情報共有の重要さをあまり分かっていない。
- ⇒(6)応答・19 ・この場もある意味、学生と民と行政が同じ情報を共有しているが、そうすると、こういうこともあるといて、何かもっといいことができるかもしれない、行政だけでやるよりも、学生の力を加えたらより成果が上げられるかもしれない、だから、あらゆる情報を共有していきましょうという風に捉えるということだと思ふ。
- ⇒同上・20 ・情報を共有し合つていくと、例えば、学生からアイデアが出ると、他の主体の方々が「気付き」ということになると思うので、フレッシュな意見を出してもらつて、協働でやっていければ、すばらしいものになるんじゃないかなあと思ふ。
- ⇒同上・21 ・今の件で勉強になったのは、中間報告書の内容を何かわかつたようでいて、たくさん難しい言葉が並んでいるので、やはりそういった部分については、説明したり、分かり易くしないといけないと思った。
- (7)・22 ・市民を主体にしたまちづくり、その中でも、学生の位置付けが特別だと感じて学園都市と言われるぐらいあるなあとすごく興味を持っているが、そうはいつでも、学生同士の交流や意見を反映させる場が少ないのかなあとちょっと疑問に思つたりした。
- ⇒(7)応答・23 ・単に情報の共有だけでなく、情報を交換したり、交流するような場をもつてつとていうように、具体的に入れていかなきゃいけないということだと思ふ。
- 24 ・中間報告書の31頁の危機管理体制の確立という部分に興味があり、県外から来た青森のことを知らない人にとっては、災害が発生した際、どんな行動をとればいいのか分からないのではないかと感じた。

○中間報告書の中で、必要、大切だと感じた事項について

- 25 ・ 中間報告書の中で、これはいい事項だと、あるいは、これは絶対必要な、大切な事項だと、印象に残っているものは何か。
- 26 ・ 弘前のまちは、人が多い割には、点字ブロックが少なかったり、有音の信号機が少ないなあと思った。
- 27 ・ 主体の役割の項目で、市民全体だけではなく、そこから学生や子どもに枝分かれしていて、それぞれの役割があるということを示しているのは、すごくいいなあと感じた。
- 28 ・ 最近実施された（学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム・弘前市）共通授業で、協働について、一部を町会や市民に任せることで、さらにいいまちが作れるといったような説明を受けており、それも踏まえて、このコミュニティの役割というのは、素敵なことだなあと思った。
- 29 ・ 弘前は学校が多く、恐らく県外や市外から通う人も多いと思うので、少子化なども踏まえれば、学生を主体として、学生目線とか、若い人目線で市をつくっていくというのは、人を呼び寄せたりすることもできるので、いいなあと思った。
- (8)・30 ・ 学生、コミュニティ、事業者など色んな視点で考えているのはいいと思ったが、中間報告書の 14 頁のその他の意見のところにある障がい者や高齢者などのカテゴリーもあった方がいいと思った。
- 31 ・ 子どもの権利というのがいいと思ったが、大人が考えて子どもがいいまちではなくて、子どもが考えて大人が気付かされるいいまち、弘前市にした方がいいと思った。
- ⇒(8)応答・32 ・ 委員会で、高齢者や障害のある人もカテゴリーとして設けた方がいいのではないかという意見があったが、最終的には、地域で解決してもらおうということで、コミュニティに含めたが、これは、中間報告なので、今の意見を委員会に持ち帰って伝えたいと思う。
- 33 ・ 学生の役割のところで、全国各地から来ている、たくさんの学生が様々なことを学んでいる学生たちが、自分たちの特性を生かして、新鮮味のある提案をして、色んなことを実践できるという学生力を発揮できるような環境をつくるというのがいいと思ったが、その環境があるということを学生たちにアピールすることが大切だと思う。
- 34 ・ 意見聴取手続の項目で、市民の方々に聞く、聞きに来るという姿勢がいいと思ったが、その結果だけではなく、マイナスな部分も含めて、どういうことがあってこうしたというように、始まりから終わりまでの経過が欲しいと思った。

○中間報告書の中で、疑問に思ったり、訂正した方がいいと思った事項について

- 35 ・ 中間報告書の中で、ここはこんな考え方があるんじゃないかと、ここはどうかなあと疑問に思ったり、少しおかしいなあと思ったところはどこか。
- 36 ・ 市が学生を主体にしているというのは分かったが、せっかくだいい感じに育った学生が県外に出て行ってしまうと意味が無いので、弘前市に留めておけるようなこともした方がいいのではないかと思った。
- 37 ・ 住みやすいまちではあるが、恐らく市民からも道路のこととか出てきて、あまり反映されているのが見えないという意見もあると思うので、どういう意見が出て、こういう解決をしたという情報が、学生や他の人たちにも分かるような対策をとって欲しいと思う。
- 38 ・ 意見を言えるというのは確かだが、個人個人の目に見えないというものもあるし、意見を聞く機会をもっと増やすということが大切だと思うので、地区毎に聞くとか、年齢にかかわらずに色んなところで聞くとか、大学に行って学生に聞くとかなど、細かく意見を聞いてそれをしっかりと生かしていけるということを表すこと

が大切だと感じた。

- (9)・39 ・この自治基本条例というのは、本当の根っこというか、基礎になる部分なのかが聞きたいところである。

⇒(9)応答・40 ・まちづくりをする上での基本部分、ルールでしかなく、例えば、雪の問題でも、市民からの意見の聞き方は、意見、要望、苦情等の応答義務というのが中間報告書の30頁にあり、執行機関は、まず事実関係を調査し、そして誠意を持って臨むという姿勢を書き、それが先ほどの雪やその他の場面でも、その姿勢で臨むもので、個別事業は、この基礎の上に乗っかってるというか、ぶら下がってるというか、そういった感じである。

⇒同上・41 ・意見を聞いてくれる機会についても、今後、市でいろいろと考えてくれるとは思いますが、やはり自分たちが積極的になるということ、そういった姿勢も大切だと思う。

42 ・中間報告書の7頁に、市民の幸せな暮らしを実現するとあるが、何か漠然としていて、結局何なんだろうと感ずるので、その具体的なものをもう少し示してほしいと思った。

43 ・中間報告書の11頁に、市民1人ひとりが自らの責任で取り組む意識を持ちとあるが、そのために、市側はどういう風に働きかけるのかという部分が分からないと思った。

44 ・中間報告書の9頁のこの条例の位置付けに関して、先ほどの内容説明の際に、この条例の趣旨を尊重というのは、この条例の内容を色んなところに浸透させていけたらいいという意図であるということであったが、自分的には、その方が理解し易かったので、そういう言葉にすると、もっと理解が深まると思った。

○学生の特性として挙げられることについて

45 ・市民や他の主体とは違うような学生の特性には、どんなものがあるか。

46 ・活動する時間帯が夜が主である。

47 ・お金がなくて、行動力がある。

48 ・弘前城の入園料でも学割といったように、学生だから少しは安くといったようなものであったり、八戸市のように、学生に限らず、市民も含めて、バス料金の定額というのあれば、すごく助かると思う。

49 ・先ほどの活動する時間が夜というのは、昼には勉強しているからであって、市内には、6つの大学があり、市民にとっては、どういったことをしているのか分からないというのがあると思うので、各大学で学んでいることや活動を紹介する場があればいいと思う。

50 ・弘前は、バイト先が多くていいと思うが、車の免許を持っていない人が多いという学生にとっては、帰りの電車が無かったりするので、働きたいけど働けなかったりすると思う。

51 ・学生の特性は、若くて、時間があるということである。

52 ・学生は、自由な時間が多いので、行動範囲が広がるし、学生同士交流したりといったチャンスは、いくらでも転がっていて、そういった機会を作ろうと思えば、作れるのではないかなと思う。

53 ・学生は、好奇心が旺盛で、やりたいことはたくさん出てくることが特性だと思うが、実際は、やれないっていう部分もあると思う。

(出席委員の感想等 省略)

中間報告書に対する意見
(青森県立弘前高等学校 J R C 部)

※ 本意見の作成・文責 弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課

○ 意見No. 1

(1) 箇所 【5 頁】Ⅲ 1 前文 (この条例の前文の例)

(2) 意見

子どもが大きくなっても住めるようなまちとして、就職先の話が出ていたが、子どもの視点からすれば、就職については、あまりまだ考えてなくて、むしろスポーツや勉強を弘前から盛り上げて有名になれば、全国から集まり、弘前の良さを感じてもらえれば、将来も残ってくれるのではないかと思う。

(3) 調査概要 27 頁 28

○ 意見No. 2

(1) 箇所 【13、14 頁】Ⅲ 3 (1) 主体《方針》イ、＜その他の意見＞

(2) 意見

方針の「市外に居住し、市内に就業、就学、活動する人たちも排除せず」と、その他の意見の「障がい者、高齢者等のマイノリティーな方の声を埋もれさせないために」という部分について、そういった方々もまちに対する意見はあると思うので、そういった考え方はすごくいいと思った。

(3) 調査概要 27 頁 26

○ 意見No. 3

(1) 箇所 【15 頁以降】Ⅲ 3 (2) 主体の役割等《方針》

(2) 意見

主体の役割については、子どもや学生など、段階を踏んで役割が明確化されているところがすごく分かりやすくいいと思った。

(3) 調査概要 28 頁 40

○ 意見No. 4

(1) 箇所 【17 頁】Ⅲ 3 (2) ウ 子どもの権利＜その他の意見＞

(2) 意見

子どもの権利のその他の意見に、子どもの活動が学校に集中して、学校外の活動が少ないため、子ども会の活動も積極的に参加して欲しいとあるが、現状は参加できる状況になっていないし、子どもからすれば、子ども会は、活動が大きすぎて参加が難しいので、違った形でそういったものがあればいいと思う。

(3) 調査概要 28 頁 46

○ 意見No. 5

(1) 箇所 【18 頁】Ⅲ 3 (2) エ コミュニティの役割《方針》①

(2) 意見

ア 「担い手の育成に努め」という部分について、子どもが少なくなって、それが難しくなっているが、まちづくりにおいてはとても重要で、コミュニティは深くかかわっているので、コミュニティを絶やさないための具体的な策なども考える必要があると思った。

イ 町会の活動に子どもたちの参加を得るには、例えば、町会でねふたに積極的に

取り組んで、1人での参加は抵抗があるので、小学校にも声をかけて仲間と一緒に参加してもらうなど、具体的な活動をした方がいいと思った。

(3) 調査概要 29頁56・57

○ 意見No.6

(1) 箇所 【19頁】Ⅲ3(2)オ 事業者の役割《方針》

(2) 意見

ア 事業者の役割において、まちづくりの重要な担い手として、一層の社会貢献に努めるという利益だけを目的としないところがいいと思った。

イ この条例の原点は、市民の幸せな暮らしということで、事業者の役割にある社会貢献も大事だが、その従業員の生活の確保というのも大事であって、そういった就職先があれば、弘前に残る人が増えて、若い人でも住みよいまちになると思う。

(3) 調査概要 26頁17、27頁30

○ 意見No.7

(1) 箇所 【22頁】Ⅲ3(2)キ 執行機関等の役割《方針》

(2) 意見

今の高校生は、大学進学などで弘前から出て行ってしまうので、そういう人たちが戻ってくるようなものや弘前に子どもが残るようなものについて、これからでも考えて取り組んでいけばいいと思う。

(3) 調査概要 26頁19

○ 意見No.8

(1) 箇所 【30頁】Ⅲ5(1)エ 意見、要望、苦情等への応答義務《方針》

(2) 意見

この項目の苦情については、裏を返せば一種の意見ではあるが、聞く側にしても、言う側にしても、あまりいい気持ちはしないものであるが、それでもしっかりと受け止めた上で、誠意を持って対応するという姿勢は、すごくいいことだと思った。

(3) 調査概要 28頁41

○ 意見No.9

(1) 箇所 【31頁】Ⅲ5(1)行政運営 オ 危機管理体制の確立《方針》

(2) 意見

危機管理体制の確立については、東日本大震災後数年が経過し、危機感が薄れてきている中で、あらかじめ各主体が協力して備えることで、何かあったときに対応できるのでいいと思った。

(3) 調査概要 28頁38

○ 意見No.10

(1) 箇所 【35頁】Ⅲ5(1)ク 情報公開、情報提供等《方針》クー1 情報公開

(2) 意見

ア 情報公開について、市民が意見を出すにしても、市の取組などを知る必要があるので、市民が意見を出しやすくするためにもいい制度であると思った。

イ 情報公開の部分については、その具体的な方法が分からないとともに、その他の意見として、ホームページ等あるが、その方法だけではお年寄りには伝わらないと

思うので、色んな方法で行うこととして、その具体的な方法をこの報告書に記載すればいいと思う。

(3) 調査概要 28 頁 37、29 頁 50

○ 意見No. 1 1

(1) 箇所 【35 頁】Ⅲ 5 (1) ク 情報公開、情報提供等《方針》クー 2 情報提供

(2) 意見

ア 例えば、子ども議会で話し合った結果は、その学校の中では報告されたが、市民全員に報告しているのかについて知りたいと思ったが、やりっ放しではなく、こういうことをしたという情報提供にもしっかりと取り組んで欲しいと思う。

イ ボランティア活動などに参加してかかわりたいが、その方法が分からないという部分あるので、その情報を必要としている人に、しっかりと情報が伝わるような情報提供のやり方などを今まで以上に工夫して、改善すればいいと思う。

(3) 調査概要 27 頁 24、29 頁 53

○ 意見No. 1 2

(1) 箇所 【40 頁】Ⅲ 5 (2) 住民投票《方針》、＜その他の意見＞

(2) 意見

ア 市だけで決めるのではなく、住民一人ひとりの意見を確認することと、その結果が尊重されて、議会で再度話し合われたりするなどということがとてもいいと思った。

イ 住民投票の項目のその他の意見について、高校生、義務教育を終えた人などに投票権を与えてもいいとあるが、そういった人は、理解もそこまで深くないであろうし、他の人の意見に流されやすく、適正な方向に進まないかもしれないので、投票権を与えるには未熟であると思う。

(3) 調査概要 28 頁 35・45

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日 時	平成25年12月26日(木)14時35分～16時3分	
場 所	弘前市民文化交流館 ホール(ヒロロ4階)	
出席者 (15人)	団体	(子ども:8人) 青森県立弘前高等学校JRC部
	委員	(3人) 佐藤三三委員長、清野委員、三橋委員
	担当	(4人) 櫻田市民協働政策課長、工藤係長、櫻庭主査、佐藤主事
団体に対する中間報告書の内容説明		平成25年12月26日(木)、一括説明
<p style="text-align: center;">調査概要</p> <p>(※ 市民協働政策課長挨拶)</p> <p>(※1 趣旨説明)</p> <p>(※2 出席者紹介)</p> <p>1 開会</p> <p>2 意見聴取</p> <p>(○団体名、活動内容等について 省略)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○中間報告書の内容に対する質問、疑問等について</p> <p>1 ・中間報告書の中で、もう少し説明を聞いてみたいこと、疑問に思ったことは何か。</p> <p>(1)・2 ・協働という言葉がたくさん出てきているが、その協働で具体的にどういうことをするのかということが、もし決まっていたら教えて欲しい。</p> <p>⇒(1)応答・3 ・協働といえば、市長をトップに決まったことを実行に移す行政、それを監視する議会、そして市民は、自治という基本をその2者に委任して、選挙で市長、議員を選ぶという考えだが、これからは、もっと市民が日常的にかかわっていくあり方を決めて、今まで以上に3者が力を合わせていくための仕組みづくりなので、3者が一緒に力を合わせて弘前市を良くしていこうということである。</p> <p>(2)・4 ・主体の役割の中で、学生、子どもに目を向けているが、子どもの数が減っている中で、権利があるのはどうかと思うわけではないが、その対策などはあるのか。</p> <p>⇒(2)応答・5 ・大学で一端、弘前を離れるかもしれないが、弘前で育ち、弘前っていいなって帰ってきて、学んできたことを返してもらえるように、仕事ができる場や、子育てしやすいように、例えば、家を建てる人には補助金を出したり、医療費無料にしたり、子どもたちが大きくなったときにも住めるような仕組みづくり、体制を一生懸命整えている。</p> <p>⇒同上・6 ・子どもは少なくなるけれども、その子どもたちが「自分たちがまちをつくっていく。」という気持ちを持てるように、協働していこう、この条例に子どもを入れていこうという思いで中間報告書を作ったので、皆さんも絶対に帰ってきて欲しい。</p> <p>(3)・7 ・まちづくりには、学生の協力が必要だとあるが、市役所の人たちと接する機会は少ないと思っており、そういったものは、こういう話し合いを通して生まれているのか。</p> <p>⇒(3)応答・8 ・行政の職員だけで決めないで、色んな委員会をつくり、意見を吸い上げるようにはなっているが、これまでは、高校生や中学生を呼んで、色々意見を聞くことは、最初から聞いても分からないというような考えで、ほとんど無かったのではないかなと思う。</p> <p>⇒同上・9 ・しかし、聞き方次第で引き出していくことはできるのではないかな、小・中学生、高校生もまちの大きな担い手という発想になってきて、皆さんにもこういう場面</p>		

に出てきていただいたが、できればもっと別の色んな機会にも、直接意見を述べる機会ができれば、本当にいいと思う。

○中間報告書の中で、個人的に興味や関心を持った事項について

- 10 ・ 中間報告書の中で、個人的に興味や関心を持った事項は何か。
- (4)・11 ・ 主体にコミュニティとあるが、自分たち高校生が学校生活と両立しながらでも参加できるコミュニティはあるのかと思った。
- ⇒(4)応答・12 ・ 地域コミュニティである町会は、高齢化しているので、是非、高校生も学校から帰ってから又は土曜、日曜でも参加してもらいたいし、テーマコミュニティは、自主的、自発的に、その興味関心がある人が集まっているので、高校生でも、土日に参加することができるものはあると思う。
- ⇒同上・13 ・ 皆さんは、コミュニティとなると疑問に思うかもしれないが、清掃や共同募金の活動などを通して、十分まちづくりにかかわっているのでは、それを自覚して、また色々取り組んでいけば素晴らしいと思う。
- (5)・14 ・ 私たち学生の立場でも、意見を言えるような機会が増えることについて、ものすごく興味、関心があった。
- ⇒(5)応答・15 ・ 弘前も子ども議会といって、学校で困ったことをこういう風に改善した、こういう風な学校、地域になったらいいということを発言する場を設けていて、そういう場を与えられて経験すれば、中学校、高校に行っても話してみようとなるので、経験を積んでいくことは、すごい大切だと思う。
- ⇒同上・16 ・ このように皆さんとお話するのは第一歩で、学生の意見も吸い上げるということを経験報告書に盛り込んでいるので、これが決定すれば、市役所の職員も、私たちも意識しながら、年齢にかかわらず、弘前はこういうことをしたら良くなるといった話し合いの場は、これからますます設けられていくと思うし、そうしないといけないと思う。
- (6)・17 ・ 事業者は、利益目的だと思うが、事業者の役割のところ、まちづくりの重要な担い手として、一層の社会貢献に努めるという簡単に言えば、ボランティアのような精神も事業者に与えられるという利益だけを目的としないところがすごいいいと思った。
- ⇒(6)応答・18 ・ 企業においても、例えば、銀行の方が朝掃除してるとか、大学でも地域貢献は、大きな仕事になっているので、そういう意味で、地域貢献の重要性に気付いていない企業の人たちにも、企業自体も1つの市民なので、市をつくる担い手という自覚を持って、市を良くする活動にも一生懸命頑張りたいという狙いがある。
- (7)・19 ・ 高校生などが大きくなって、大人になって弘前を支えていくということであったが、今の人たちは、結局、弘前から出て行ってしまうので、そういう人たちが戻ってくるような何か、弘前に子どもたちが残るようなものをこれからでも考えて取り組んでいければ、子どもは減るけれども、逆に今後戻ってくる人もいると思う。
- ⇒(7)応答・20 ・ どんな弘前をつくっていくか、これからのまちづくりにおいて、どんなことをしたらいいのかということの1つになると思う。
- (8)・21 ・ 清野委員が行っているNPO、テーマコミュニティでは、全ての子ども、幼稚園から高校まで、色んな年代に対して活動されているのか、また、どういう活動がされているのかが気になったところである。
- ⇒(8)応答・22 ・ 自分が活動しているNPOは10年目で、対象年齢的には子どもだが、子どもを真ん中に置いたまちづくりと考えているので、周りには、お父さん、お母さん、お爺ちゃん、お婆ちゃん、さらには町内会もあるため、あまり年齢は関係ない。
- ⇒同上・23 ・ いつも子どもとは接しているが、事務所の2階をフリースペースにして高校生と

	も接しているし、最近多いのは、子どもがまちなかに笑顔でいられるようにというまちづくりのイベントを商店街や行政と一緒に活動しているので、何でも屋みたいな感じだが、とにかく子供の笑顔があふれるようにするためにはどうしたらいいのか、私たちができることは何なのかといった活動をしている。
(9)・24	・先程、子ども議会という言葉が出てきたが、昨年中学校で、何人かがその子ども議会に参加してたような気がしていて、そこで話し合った結果は、その中学校の中では報告されたが、市民全員に報告しているのか。
⇒(9)応答・25	・その報告についても、やりっ放しではなくって、こういうことをしたという情報公開を積極的にして、市民に知らせるためには、どういう手段をとれば分かりやすく、最も伝わるのかということも考えていこうというのがこの条例の中に入っている、その意見は、すごく貴重なものである。
(10)・26	・主体の「市外に居住し、市内に就業、就学、活動する人たちも排除せず」と、「障がい者、高齢者等のマイノリティーな方の声を埋もれさせないために」という部分について、今、市外からだけでなく、国外からもたくさんの人が弘前に来ているし、障がい者の方々、高齢者の方々も、まちに対する色々意見はあると思うので、こういう考えがあるというのはすごくいいと思った。
⇒(10)応答 ・27	・皆さんの純粋ないい意見も取り入れて、皆さんがこれからかわって、みんなで協働で取り組んでいければ、赤ちゃん、子ども、老人の方、障がい者の方みんなの笑顔で、いいまちづくりになるという願いがあって、今回は、そのきっかけになればという思いもあって意見聴取をしているが、皆さんの意見を聞いてすごくうれしく思っている。
(11)・28	・子どものこともすごく考えているので、自分たちも責任を持ってまちづくりに参加していかなければと思ったが、この愛着心を持つためには、就職なども考えてとあったが、正直、子どもの視点からすれば、就職は、あまりまだ考えてなくて、自分からすれば、スポーツや勉強をもう少し弘前から盛り上げて有名になれば、全国から高校生なども集まり、弘前に来ていいなあと思えば、将来も残ってくれるのではないかなと思う。
⇒(11)応答 ・29	・いい弘前というか、住みよい弘前、そんな弘前の1つの条件として、スポーツにもっと力入れたらどうか、教育水準をもう少し高く上げていったらどうかということで、まちづくりといっても、どういうまちを作るかが大事なので、それはこの条例の前段部分に書いてあるところで、そこに加わっていくような意見と取らせていただきたい。
(12)・30	・この原点にあるのは、市民の幸せということを知って、事業者の役割にもある社会貢献も大事だが、その従業員の生活の確保というのも大事だと思って、自分たちは、大学受験でまだ就職は早いと思うが、高校を卒業して就職する人もいるので、やはり就職先があれば、弘前に残る人が増えて、若い人でも住みよいまちになると思った。
⇒(12)応答 ・31	・やはり、人が定着していくには、働く場所が必要で、しかも、働いて働き甲斐のあるような、働く人を大事にしてくれるような、そういう会社をたくさん弘前に作るというか、定着していけばということだと思う。
○中間報告書の中で、必要、大切だと感じた事項について	
32	・中間報告書の中で、これはいい事項だと、あるいは、これは絶対必要な、大切な事項だと、印象に残っているものは何か。
(13)・33	・子どものところで、市内に住居するとしているが、市外に住居し、市内に就職、就学する人も排除せずというところについて、市外からも連れてくることで、その市外の人たちが自分の市もこんなことをしたらいいということが全体に広まる

- きっかけにもなるので、すごくいいと思った。
- ⇒(13)応答
・ 34
(14)・ 35
- ・ 通勤や通学で 2 つの地域を行き来しているような方は、いいとこ悪いとこ比較して発言できるという面もあると思う。
 - ・ 住民投票については、市だけで決めるのではなくて、住民一人ひとりの意見を確認して聞いてくれることと、その結果が尊重され、議会でもう 1 回話し合われたりするなどというのが、これから私たちも選挙など投票できるようになるのではともいいと思った。
- ⇒(14)応答
・ 36
- ・ 委員会としては、住民投票の仕方は色々だが、実施できるとしたもので、今の意見は、今までは選挙で議員や市長を選ぶときだけだが、何か特別な問題で必要なときには、こういう住民投票で直接、その施策について投票できるということは、積極的に評価できるというご意見と理解したい。
- 37
- ・ 中間報告書 35 頁の情報公開について、自分たちで意見を出すにしても、その市で何に取り組んでいるか、どんなことを基本にしているかが分からなければ意見を出せないで、市民が意見を出しやすくするためにもいい制度だと思った。
- (15)・ 38
- ・ 危機管理体制の確立については、東日本大震災が終わって、2 年ぐらい経ち、少し危機感が薄れてきている中で、市民、コミュニティ、事業者と市が協力して、あらかじめ備えることで、何かあったときに対応できるのでいいと思った。
- ⇒(15)応答
・ 39
- ・ 阪神大震災の経験からの講演を聞いて、すごく心に残っているのが、地域社会が高齢化しているので、1 番期待したいのは中学生ということで、理由は、中学生は、その地域から地域に通っているし、その親も若いため、何か起こったら中学生が中心になって動いてもらおうと言っていたが、是非、高校生にも活動して欲しいと思う。
- 40
- ・ 主体の役割が年齢層というか、子どもや学生など、そういう段階を踏んで、役割が明確化されているところがすごく分かりやすくいいと思った。
- 41
- ・ 意見、要望、苦情等への応答義務のところ、苦情は、裏を返せば一種の意見ではあるが、どうしても聞く側にしても、言う側にしても、あまりいい気持ちはしないものであり、それでも、しっかりと受け止めた上で、誠意を持って対応するという姿勢を持つことは、すごくいいことだと思った。
- 42
- ・ 協働をテーマにしていること自体、すごくいいと思っていて、このように市の方と直接話をするのも貴重で有り難く、これから中学校などで行うのを増やしていきたいと先程お話ししていたのもすごくいいが、子どもは、恐らく機会があっても、自分から参加する人は少ないと思うので、回数も増やし、参加する子どもが増えればいいと思った。
- 43
- ・ 学生は、全国から集まってくるので、その人たちに弘前の良さを知ってもらい、それが広まって他県の人が集まってくれば、それでも学生は減るかもしれないが、県外の人などで増えていくのではないかなと思うので、全国から集まった学生に学生力を発揮してもらおうということは、すごくいいと思った。

○中間報告書の中で、疑問に思ったり、訂正した方がいいと思った事項について

- 44
- ・ 中間報告書の中で、ここはこんな考え方があるのではないかなとか、ここはどうかかなと疑問に思ったり、少しおかしいなあとあったところはどこか。
- 45
- ・ 住民投票のその他の意見に、高校生、義務教育を終えた人などに投票権を与えてもいいとあるが、そういった人は、理解もそこまで深くないだろうし、誰かが言った方に流されやすく、適正な方向に行かないかもしれないので、与えるには未熟ではないかなと思った。
- (16)・ 46
- ・ 子どもの権利のその他の意見に、子どもの活動が学校に集中して、学校外の活動が少ないため、子ども会の活動も積極的に参加して欲しいとあるが、現状は、参

- 加できる状況になっていないし、子どもからすれば、子ども会は、活動が大きすぎて参加するのが難しいので、何か違った形でそういったものがあればいいというのがある。
- ⇒(16) 応答
・ 47
- ・ その部分では、もっと子ども会やまちづくりに参加して欲しいとあるが、中々難しく、言い換えれば、参加して欲しいのであれば、学校活動をしていても、意見を述べたり、参加できるような、高校生が持っている力を発揮できるよう方法を考えて欲しいということだと思う。
- ⇒同上・ 48
- ・ 子ども会や町会自体があまり積極的にやられておらず、子ども会が衰退している状況で、再生には時間がかかり、無理ではないかとみんな感じており、子どもや学生に積極的に声をかけて、社会にかかわる場面を敢えて作っていかないと駄目な時代になるということを数日前に知人と話していたが、今の意見は、すごく鋭い、生の声だと思う。
- 49
- ・ 自分は電車賃などが、都会に比べれば高くて、小学生の頃は半分の料金だったので利用できたが、中学生は大人料金なので、利用しづらくて、親と一緒にでなければ利用できなかったもので、その料金の問題が気になる。
- 50
- ・ 情報公開という部分を読んでいても、その具体的な方法が分からないというのが1つと、その他の意見として、ホームページなどと書いているが、その1つの方法では、お年寄りには難しく、伝わらないと思うので、色んな方法で行うとともに、その具体的な方法をもう少しこの報告書に書けばいいと思う。
- (17)・ 51
- ・ 高校を卒業して、弘前市から出ていかにしたいという話が出ていたが、都会に比べて、どうしても給料とか、仕事場も少ないと思うが、その点はどうしようもないことなのか。
- ⇒(17) 応答
・ 52
- ・ 難しいだろうけども、1番の、最大の課題で、みんなが1番望んでいる大事なことだと思うので、しっかりと働き場所もあって、この弘前で豊かな生活が送れるようなまちをつくるために、一生懸命取り組んで、それを大事にしてくださいということだと思う。
- (18)・ 53
- ・ 中間報告書には載っていないが、ボランティア活動などに参加したいが、その方法が分からないという人がいて、自分も町内の様子が回覧板以外では知ることができなかったもので、かかわりたいけどその方法が分からないという部分を改善したらいいと思う。
- ⇒(18) 応答
・ 54
- ・ その情報を必要としている人に、しっかりと情報が伝わるような情報提供のやり方などを今まで以上に工夫して、必要としている人にしっかりと届くような方法を考えるべきではないかということだと思う。
- ⇒同上・ 55
- ・ 確かにいい意見ではあるが、それぞれが色んなところで、例えば、パンフレットを手にして問い合わせしてみるとか、広報を気を付けて見たりして、待ってるだけでなく、積極的にそういうものを活用するという方法も1つかなと思う。
- (19)・ 56
- ・ 18頁の方針①「担い手の育成に努め」という部分について、子どもが少なくなっている、それが難しくなっているが、まちづくりをするためにはとても重要で、そういうコミュニティは深くかかわっているので、コミュニティを絶やさないための具体的な策なども考える必要があると思った。
- (20)・ 57
- ・ 18頁の「町会の加入」について、自分も町会が機能しているかどうかは把握しておらず、子どもたちが参加するには、例えば、町会でねぶたに積極的に取り組んで、1人での参加は抵抗があるので、小学校にも声をかけて仲間と一緒に参加してもらおうなど、具体的な活動をした方がいいと思った。
- ⇒(19)(20)
応答・ 58
- ・ 皆さんのお話を聞いていて、コミュニティの役割がすごく重要だというご指摘をいただいているように思う。

○高校生の特性として挙げられることについて

- 59 ・ 大人や他の主体とは違うような高校生の特性には、どんなものがあるか。
- 60 ・ 中学生のときより、行動範囲が市外にも広がっているし、大人のように働かなければならないというのもなく、自分で勉強などしっかりとすることはしなければいけないが、自分のしたいことができるので、自由なのかなと思う。
- 61 ・ 高校生になってもまだ成長しきれていないが、これから年齢が上がるにつれ、自分で考えて、高校生は行動力もあり、ボランティアなどにも積極的に参加できる年齢だと思う。
- 62 ・ 市外に出ると、新しい経験や出会いも増えるし、今までは、自分のまちは、田舎で嫌だと思っていたが、自然があつていいというとらえ方もできたり、考え方が変わる時期なので、それを生かして色んなことや目標も見つけたりできると思った。
- 63 ・ 高校生は、大人に近づいているので、社会のことを少しずつ考えるようになったり、自分がそのまち、市のために協力できることを見つけて積極的に参加していくのは、今の時期しかできないかもしれないので、参加しなければいけないと思っていて、将来についてこの時期から考えていける年なのかなというのがある。
- 64 ・ 働いていないので、色々調べたり、将来のことについて考えるのも 1 番いい時期だということと、中学生よりは行動力があるということを高校生になってから感じているし、高校生になれば、怪しまれなくなるので、色々体験できる時期だとも思う。
- 65 ・ 責任を強く意識し始めるというのが、中学校から上がった今の時期だと思うので、仕事という形ではなくて、今回のこういう形だったり、ボランティアで社会に貢献できたり、貢献していくというのが高校生の特色かなと思う。
- 66 ・ 高校生は、中学生に比べて、勉強量が増えたり部活も忙しくなって、とにかく多忙だということと、中学生のときは、こういう難しい話は興味無かったが、高校生でようやく学べるということがある。
- 67 ・ 高校生になって思うことは、中学生のときは守られていたということで、高校生になって、自由が広がり、いいことも悪いことも色々経験して、将来のための人間づくりをしていけたらいいと思う。

(出席委員の感想等 省略)

3 閉会

中間報告書に対する意見
(弘前市町会連合会)

※ 本意見の作成・文責 弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課

○ 意見No.1

(1) 箇所 【5頁】Ⅲ1 前文（この条例の前文の例）

(2) 意見

ア 堅苦しい条例ではなくて、現在の市民参加型のまちづくりを踏まえて、市民が参加しやすいような、また、市民憲章にあるあずましい、弘前に居て良かったというような、これからも取り組もうという気持ちが前に出るような条例になれば、素晴らしいと思う。

イ まちづくりの基本は、ひとづくりであると痛切に感じているので、前文において、私たちの弘前は、ひとづくりが基本であって、文化も含めて、次の担い手であるひとづくりをどの組織でも、どこにおいても、みんなで心して取り組んでいこうということを盛り込むことはできないか。

(3) 調査概要 33頁4、35頁33

○ 意見No.2

(1) 箇所 【8頁】Ⅲ2(2) 定義＜解説＞

(2) 意見

ア (8頁)「市」という用語は、「議会等」と「執行機関等」を併せた表現であるが、市町村そのものの「弘前市」を指すのではないかと思う。

イ (13頁)「コミュニティ」という言葉を使っているが、その片仮名ではなく、「地域社会」や「地縁社会」という言葉をなぜ使えなかったのかと思った。

ウ (13頁)「議会等」という言葉の「等」は、どのような意味を持っているのかという疑問が払しょくできない。

(3) 調査概要 33頁7・8

○ 意見No.3

(1) 箇所 【13頁】Ⅲ3(1) 主体＜方針＞ア① 市民

(2) 意見

何十年も居住している外国人は、税金を払っていて市民権があるとともに、意見や斬新な考え方など、色々持っているので、そういうものもこの条例でとらえてもらえればいいと思った。

(3) 調査概要 33頁1・3

○ 意見No.4

(1) 箇所 【15頁】Ⅲ3(2)ア 市民の役割等＜方針＞

(2) 意見

ア 中間報告書には、学生が市外の人々というのも記載されていて、確かに大事なことだと思うが、まちづくりは、古いものと新しいものが入り混じった中で意見を述べ合うことが大事であるため、市民により比重を置いて、この条例の理解と同時に、協力と協働の取組や意気込みのある人をどれだけ増やすかが非常に重要だと思う。

イ 町会の加入率については、非常に考えさせられる問題であるが、加入率を上げるため、現在は、何も拘束するものがないので、町会の加入に関する条例を行政

にお願いできないものかと思っている。

(3) 調査概要 35 頁 28、36 頁 39、37 頁 49

○ 意見No. 5

(1) 箇所 【16 頁】Ⅲ 3 (2) イ 学生の役割《方針》

(2) 意見

学生は、市外から来ている人も多く、当市の本当の文化が分からないと思うので、そういったことも覚えるということも非常に大切であると思う。

(3) 調査概要 36 頁 47

○ 意見No. 6

(1) 箇所 【22 頁】Ⅲ 3 (2) キ 執行機関等の役割《方針》

(2) 意見

町会の加入率の問題は、地域として考えるものであると思うが、行政としてできるとすれば、町会の加入者に対する優遇措置であると思う。

(3) 調査概要 37 頁 50

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日 時	平成25年11月11日(月)16時～17時18分	
場 所	弘前市役所本庁舎 新館5階 入札室	
出席者 (11人)	団体	(コミュニティ:4人) 弘前市町会連合会
	委員	(4人) 佐藤淳委員、福士委員、鹿内委員、阿部委員
	担当	(3人) 三上市民協働政策課長補佐、工藤係長、櫻庭主査
団体に対する中間報告書の内容説明		平成25年10月10日(木)、一括説明(一部個別説明)
<p style="text-align: center;">調査概要</p> <p>(※ 市民協働政策課長挨拶)</p> <p>(※ 1 趣旨説明)</p> <p>(※ 2 出席者紹介)</p> <p>1 開会</p> <p>2 意見聴取</p> <p>(1)・1 ・弘前市には、外国人がたくさんいるが、この条例の制定に当たっては、何十年も居住している外国人も関わってもらえないのかと感じている。</p> <p>⇒(1)応答・2 ・あくまでも住民自治は、そこに住んでいる人が幸せに暮らすためのものという思いから、中間報告書の13頁で、市民は、市内に居住する全ての者としており、外国人については表現していないが、居住する全ての者であるため、含まれると認識している。</p> <p>(2)・3 ・そういった外国人も恐らく税金を払っていて、払っている以上は、市民権があるわけで、意見、斬新な考え方、色々持っているので、そういうものも弘前独自の条例で捉えてもらえればいいと思った。</p> <p>(3)・4 ・条例といえば堅苦しいものだが、そうではなくて、独自性がある温かく、そして、現在の市民参加型という素晴らしいことも踏まえて、市民が参加しやすいような、市民憲章にもあるように、あずましい、弘前に居て良かったというような、これからもやろうという気持ちが前に出るような条例になれば、大変すばらしいものだと思う。</p> <p>⇒(2)応答・5 ・外国人の問題については、町会にしてみれば、ごみや雪かき等に関して、国籍を問わず、その地域に住んでいる人たちは、ルールを守り、協力して行わなければならないという部分もあるので、住んでいる人は市民というような捉え方をしている。</p> <p>⇒(3)応答・6 ・委員会でも、条例の題名は、堅苦しくなく、あずましいまちづくり基本条例とか、分かり易いものにした方が市民の理解を得られるのではないかという議論をしたものである。</p> <p>(4)・7 ・中間報告書の1頁で、コミュニティという言葉が出てきて、最後までそれで流れているが、この片仮名ではなく、もっと簡単に、地域社会とか、地縁社会という用語をなぜ使えなかったのかと思った。</p> <p>(5)・8 ・中間報告書の8頁のイメージ図の市民等、議会等の「等」は、どのような意味を持っているのかという疑問が払しょくできないし、市という用語も、議会等と執行機関等を併せた表現であるが、一般的には、市町村そのものの弘前市を指すのではないのかという解釈をしており、そういった用語は、この条例の柱となると思うので、いかがなものか。</p> <p>⇒(4)応答・9 ・コミュニティは、中間報告書の13頁で、市内に事務局を置いて云々という主体</p>		

- を表す用語としているが、委員会では、NPOなどのテーマコミュニティと町会のような地域コミュニティの2種類を併せて、コミュニティという団体を指す言葉としたものである。
- ⇒(5) 応答・10 ・イメージ図の「等」について、行政を表す用語は、色々使われており、先ほどのご意見のような使い方もあるが、地方自治法の表現なども踏まえながら、表現したものである。
- ⇒(4) 応答・11 ・コミュニティについては、代わりになる日本語があるとすごくいいとは思いますが、中々合致するようなものがないという現状で、コミュニティという言葉が一般的に使われているところである。
- (6) ・12 ・最近、片仮名が街中にあふれているというときに、コミュニティという言葉限定して使うということは、その中に込められた意味があるはずだと思い、自分自身が理解するまで、相当な努力が必要である。
- ⇒(6) 応答・13 ・これからのまちづくりは、市や議会、市民個人個人でやるものではないし、大事なことは、町会やNPOといった組織の人たちも積極的にまちづくりに加わることで、そうなってもらいたいという思いを込めて主体の1つとして入れているが、その表現が片仮名であることについては、我々ももう少し勉強したい。
- (7) ・14 ・この条例の最高規範性、まちづくりの1番の基になるという考えについては、まちづくりの基本条例に則り、他に派生してくる条例を作るという位置付けなのか、あるいは、子どものいじめ防止条例のような1つの条例と並列的な条例として、参考にしたか、基本にしたかすればいいのか、その辺はどうなのか。
- ⇒(7) 応答・15 ・中間報告書の9頁の解説のとおり、一般的には、最高規範などといわれているが、当市では、効力的に優越関係とするのではなく、他の条例や計画を作るときに、精神的にというか理念を参考に、常に尊重して、自治基本条例の理念をほかのものに浸透させていくという考え方である。
- (8) ・16 ・尊重していくとすれば、拘束性というか、今後市民に徹底させていくのか、それとも、基本条例を参考にやっていくのか、その辺の共通理解はどうなっているのか。
- ⇒(8) 応答・17 ・法律では、憲法が1番上にあって、その他の法律が下にぶら下がる形になっているが、条例の場合は、そのような体系とすることができず、最高規範ではないが、例えば、自治基本条例で協働してまちづくりを進めるとした場合には、他の条例をつくるときには、その協働の精神で作っていかねばならないものになると思う。
- (9) ・18 ・条例の1つであって、あくまでもまちづくりをするときは、この条例をよく読んでやっていこうというもので、これが最高規範になるわけではないということか。
- ⇒(9) 応答・19 ・最高規範になるわけではなく、自治基本条例に基づいて、その精神を理解して、他の条例や計画が作られなければいけないという形でいいと思う。
- (10) ・20 ・今回の各団体からの意見聴取は、効率的で非常にいいことだが、まちづくりにおいては、市民主体で、市民の理解がないといけないというのは当然であって、協働という言葉が出てきているということを考えれば、数多くの市民からの意見を聞く、市民との直接対話というものが、非常に大事なことだと思う。
- ⇒(10) 応答・21 ・委員会の委員も市民の皆さんから意見を聞いて、より良い条例を作ろうとしている。
- ⇒同上・22 ・この条例の制定において、市民の意見を聞くという部分では、中間報告書を市内の公共施設に配置し、広く意見募集をしており、それと並行して、今回のような対面式の意見聴取をしているが、意見等への対応について、中間報告書の30頁では、事実関係を調査し、誠実に対応するという精神を盛り込んでいるので、条

- 例制定後は、より一層その点に配慮することになると思う。
- (11)・23 ・今回、町会連合会から4人來ているが、各地区のうち、町会をピックアップして選定し、町会長がその町会内の意見を聞いて、その後代表して発言していただくという方が、非常に手間は掛かるけども、市民の理解を得られるし、幅広く効率的に意見を聞けると思う。
- ⇒(11)応答
・24 ・自治やまちづくりは、非常に手間の掛かる作業の積み重ねで出来ているので、日程等の問題はあがるが、そういう風なことをしなければいけないと思っており、今の意見は、非常に貴重な意見だと思う。
- ⇒同上・25 ・今回、この形式で意見聴取を実施した理由の1つに、それぞれの主体の方からも、その主体の立場としての意見を聞くという委員会の思いがあったためであるが、広く意見を聞くことは、非常に大事な部分であるため、今後の参考としたい。
- ⇒同上・26 ・条例は作って終わりではないので、作った後においても、その条例がどういったものなのかということを市民の皆さんに対して、色んな形で説明をする場を作らなければいけないということは、委員も思っているし、市でも思っている。
- (12)・27 ・市民が豊かになるための条例なので、当市の魅力である学園都市というものを打ち出すとともに、弘前市は、何度かの合併を経ていて、それぞれの土地で経験してきているものがあり、人間関係やものの考え方が多少違うといったこともあるので、条例では定められないと思うが、その辺も考慮せざるを得ないという感じもする。
- 28 ・町会は、連合会組織での動きが主で、現在は、その意見も聞いているので、今後ともその意見を反映しながら、住みよい豊かなまちづくりが実現できればいいが、それには、この条例が必要で、古いものだけではなく、新しいものとミックスした考えも必要だと思う。
- (13)・29 ・現在は、民主主義を超え、個人主義になっていて、町会長は、ボランティア、社会貢献活動をしているだけで、そういう活動をする人が少ないという現状であり、いかにそれを条例の中でやっていくかということが求められている感じがするので、それを含めてもらえれば浸透できると思う。
- ⇒(12)応答
・30 ・学都の件は、委員会でも議論があり、大学生がたくさんいるまちということで主体として学生を位置付けたが、その点については、恐らく全国の条例で初めてではないかと思う。
- ⇒(13)応答
・31 ・自分のことだけではなくて、地域の人や周りのことを考えてといった件について、委員会としては、この条例を作ることによって、地域のことを考えるような市民の皆さんが増えていってもらいたいという思いである。
- ⇒(12)応答
・32 ・人間関係等々については、中間報告書18頁で、まずは市民の方がまちづくりにおいて、最初にかかわっていくものは、町会、コミュニティであるとして、それによって人と人とが繋がってまちづくりに参加しやすくなるのではないかという意味でも、町会は、今後に残していくべきであるという方針で盛り込んである。
- (14)・33 ・自分の経験上、痛切に感じるのは、ひとづくりであるが、中間報告書では出てこないの、前文において、私たちの弘前は、ひとづくりが基本であって、文化も含めて、次の担い手であるひとづくりをどの組織でも、どこにおいても、みんなでこころしてやっていこうということを入れることができないのか。
- ⇒(14)応答
・34 ・恐らく、ひとづくりのニュアンスは、まちづくりに担い手を育成するという文章に含まれると思う。
- (15)・35 ・担い手という言葉が出ていても、やはりひとづくりに帰着する（最終的に落ち着く）のではないかと思う。
- (16)・36 ・主体の役割等という項目で、市民の役割等、学生の役割と続くが、それらの見出

- しは、市民、学生と簡単にしてもわかるのではないかと思いますので、その辺も検討して欲しい。
- ⇒(15) 応答
・ 37
- ・ ひとつづくりの件は、今後の議論の中に反映させていきたいと思うが、見出しの件は、条例を作る際のルールのようなものがあって、中々できない部分もあると思う。
- ⇒(16) 応答
・ 38
- ・ 現在のものは、中間報告書であって、委員会の思いを記載したものであるが、条例化に当たっては、この表現を基に行うものであり、そのルールと分かりやすさの兼ね合いを見るとともに、今の意見を参考にしながら進めたいと思う。
- (17) ・ 39
- ・ 中間報告書には、学生や市外の方々というのがあって、確かに大事なことだと思うが、まちづくりは、古いものと新しいものをミックスした中で、意見を述べ合うのが大事なので、市民により比重を置いて、条例の理解と同時に、協力と協働とやる気と呼び起こし、どれだけそういう人を増やすかが非常に大きな問題だと思う。
- ⇒(17) 応答
・ 40
- ・ 条例は、作って終わりではなく、理解して、この条例の趣旨に基づいて行動してくれる市民をどれだけ増やしていくかということが大きなポイントなので、条例制定後、市長以下、職員が、皆さん、地域の方と一緒にやっていくかだと思う。
- (18) ・ 41
- ・ 町会は、行政の下請けではなく、主体性を持ってやる組織であるので、地方分権が加速し、市民、議会、行政が一緒に取り組まなければならない時代においては、すばらしい条例制定だと思うが、この条例は、住んでいる市民が主体で、市民にとって温かみのある条例でなければならないので、皆さんにご努力願って、市民参加型のこういった条例をより良いものにして欲しい。
- ⇒(18) 応答
・ 42
- ・ 町会の役割は、市から言われたことをやったりするだけでなく、町会が中心となって地域のことを解決していくことも重要な役割であって、そのために、市として町会を支援しなければいけない部分もあるということは、委員会でも議論したが、町会の活動を活発化するために、この条例に盛り込みたいことなどはないか。
- (19) ・ 43
- ・ 地区町会連合会では、毎月、定期的に集まっているが、エリア担当職員も来て接触の機会も多く、情報を常に提供して、地域からの情報も良く聞いていくことから、行政の理解にもつながるし、時には、協力にも繋がっていき、その辺が地域に繋がった市民のための行政ということに繋がっていくので、エリア担当職員を増やしてもいいと思う。
- ⇒(19) 応答
・ 44
- ・ 町会の皆さんは高齢化し、労働力が少なくなっているなので、若い人が入り活性化するまでは、市の職員がエリア担当制度のようなものでサポートすることは、すごく大事だと思うので、市長が変わっても継続されるよう、職員は、もっと地域に出るべきといった内容は、この条例の中に盛り込まなければならないと個人的には思っている。
- (20) ・ 45
- ・ 町会の 1 番の悩みは、加入しない人がいるということで、弘前の場合は、市民そのものが豊かだからかもしれないが、ニセコ町で 10 年前に条例を制定したのは、地方分権になるから条例を作れというのか、それとも、みんなで豊かにしようと思ったのか、どういう風な条件のもとに発想したのか。
- ⇒(20) 応答
・ 46
- ・ ニセコ町の場合、市民の中から、役所だけがまちづくりをするのではなくて、市民も、それから町会や NPO も一緒になってまちづくりをしないといけないという思いが出て、作られたと認識している。
- 47
- ・ 上からではなく、下からやることが浸透していく 1 つの要因で、ニセコ町は非常にいいまちづくりが進んでいると思うので、当市の学都の件で言えば、学生は、地元以外から来ている人も多く、本当の文化が分からないと思うことから、

- ⇒(20) 応答
・ 48
- ・ 町会の加入率の問題は、委員会でも認識しており、加入しなければ罰則を与えるのは本末転倒で、町会に入ろうと思えるように、入りたいと思う市民を増やしていくために、色んなことを取り組んでいかなければいけないとしたところである。
- (21) ・ 49
- ・ 町会の加入率について、弘前市の場合はわからないが、行政職員の加入率が低い自治体もあって、とても考えさせられる問題であるが、いかにしたら加入してくれるのか、現在は、何も拘束したものが無いので、町会の加入に関する条例を行政にお願いできないものかと思っている。
- (22) ・ 50
- ・ 町会の加入、脱会については、地域として考える問題だと思うが、行政としてできるとすれば、加入者への優遇であると思う。
- ⇒(21) (22)
応答 ・ 51
- ・ 条例にいいことを書いても、実際に町会に加入してくれる人が少なくて、町会の活動が活性化しなければ、全く意味が無いので、その辺は、行政の担当部署で1番やらなければならない部分だと思う。
- (出席委員の感想等 省略)

3 閉会

中間報告書に対する意見
(特定非営利活動法人コミュニティネットワークキャスト)

※ 本意見の作成・文責 弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課

○ 意見No. 1

(1) 箇所 【2 頁】Ⅱ 1 題名《方針》

(2) 意見

「協働」という言葉は、分かりにくいという感じを受けたので、分かりやすくするために、題名を「弘前市市民参加（基本）条例」としても読めると思った。

(3) 調査概要 4 2 頁 14

○ 意見No. 2

(1) 箇所 【5 頁】Ⅲ 1 前文（この条例の前文の例）

(2) 意見

（下から 2 行目）「幸せな暮らし」という表現は、抽象的ではあるが、その時代に応じて幸せな暮らしは変化すると思うので、現在の表現が非常にいいと感じた。

(3) 調査概要 4 2 頁 16

○ 意見No. 3

(1) 箇所 【8 頁】Ⅲ 2 (2) 定義《方針》

(2) 意見

ア (2 頁)「協働」という言葉は、経営でも使われていて、意味合いは理解できるが、逆にクレーマーのような人が利用する気がするので、しっかりと働く人でないという権利がないということを含めて、協働の意味をより強くうたって欲しいと思う。

イ (2 頁)「まちづくり」という言葉は、色んな意味付けができる言葉であるとともに、この条例は、市民と密着した基本条例のようなものとしてまとめているので、市民の幸せな暮らしを実現するためのまちづくりということが分かりやすく出てくると、市民の方にも浸透しやすいと思った。

(3) 調査概要 4 3 頁 24、4 2 頁 15

○ 意見No. 4

(1) 箇所 【10 頁】Ⅲ 2 (4) 基本理念《方針》

【11 頁】Ⅲ 2 (5) 基本原則《方針》①

(2) 意見

まちづくりをしてきた中において、自分たちが主体で、それ以外は参加・協力というイメージから、協働的な意味合いが本当に強くなっており、そういう意味では、対等な立場で様々なことができることと、参加ではなく、参画したい人が多いということを感じたので、協働の位置付けについては、共感できるものである。

(3) 調査概要 4 2 頁 23

○ 意見No. 5

(1) 箇所 【13 頁】Ⅲ 3 (1) 主体《方針》ア② 学生

(2) 意見

ア 学生を主体に位置付けていることは、学生のまち弘前という面が表れていると感じた。

イ 学生については、市外の人であっても、当市のまちづくりの主体であるということをしかりと本人に伝えないと、学生もその気にならないと思う。

ウ 学生のときだけ住んでいる人は、通り過ぎていく人であるが、それを敢えて主体に取り込んでいることがユニークな部分だと思うので、そこに力を入れて取り組んでいった方がいいと思う。

(3) 調査概要 4 1 頁 7、4 2 頁 13・22

○ 意見No.6

(1) 箇所 【1 3 頁】Ⅲ 3 (1) 主体《方針》ア③ 子ども

(2) 意見

子どもを主体に位置付けていることは、子どもを大事にしようとする市の姿勢が表れていると感じた。

(3) 調査概要 4 1 頁 7

○ 意見No.7

(1) 箇所 【1 3 頁】Ⅲ 3 (1) 主体《方針》ア④ コミュニティ

(2) 意見

コミュニティという主体に含まれる特定非営利法人は、営利を配当できないだけであるため、コミュニティの範囲として記載している「営利を目的とせず」という表現は、好ましくないと思う。

(3) 調査概要 4 1 頁 1

○ 意見No.8

(1) 箇所 【1 3 頁】Ⅲ 3 (1) 主体《方針》(2) 主体の役割等《方針》

(2) 意見

弘前のまちづくりに参画している学生は、県外の人が多く、やや寂しく感じているが、現在、その部分については、子どもの頃から一生懸命教育しているので、そういう意味では、先生の役割があってもいいと思う。

(3) 調査概要 4 3 頁 25

○ 意見No.9

(1) 箇所 【1 6 頁】Ⅲ 3 (2) イ 学生の役割《方針》

(2) 意見

学生は、その多くが県外から来て、4年程度で弘前から去っていくが、それまでの間に、弘前のまちを好きになってもらいたい、そして、別のまちに住んだときには、弘前はいいまちだよということを広げてもらうようなまちづくりをしたいので、意見などを吸い上げるだけでなく、企画をさせるなど、参画意識を持たせるようなものを与えることも大事であると思う。

(3) 調査概要 4 1 頁 9、4 2 頁 12

○ 意見No.10

(1) 箇所 【1 7 頁】Ⅲ 3 (2) ウ 子どもの権利《方針》

(2) 意見

子どもの権利については、まちづくりにおいて、子どもたちのために手を差し伸べることも必要だが、現に子ども議会など意見を吸い上げる機会を設けているので、権利という受け身のニュアンスではなく、役割として、子どもたちもまちづくりに

参画するニュアンスにした方がいいと感じた。

(3) 調査概要 4 1 頁 8

○ 意見No. 1 1

(1) 箇所 【1 8 頁】Ⅲ 3 (2)エ コミュニティの役割《方針》

(2) 意見

ア 一般的に、ボランティアの問題として、常々参加していると結構負担になって長続きしないということがあるので、特定非営利活動法人の活動を市民参加の場として捉え、その活動にもより多く参加してもらう方向にならないかと思う。

イ まちづくりに参加していない大人を見ている子どもは、自分も参加しなくてもいいものだと思ってしまうこともあり、町会は、組織自体の高齢化により、コミュニティとしての機能を果たしているのかという問題があるため、コミュニティの役割に町会に関する記載はあるが、町会そのものも 1 つのテーマ（主体）になるという感じがする。

ウ 町会については、改めてその捉え方は必要であるとともに、大事なコミュニティである意識も重要であると思った。

(3) 調査概要 4 2 頁 17、4 3 頁 28・34

○ 意見No. 1 2

(1) 箇所 【2 2 頁】Ⅲ 3 (2)キ 執行機関等の役割

(2) 意見

行政や町会連合会など、様々な団体が一緒になってまちづくり活動が続ける機会があれば、違う世代との交流も図られ、この条例の実効性も上がると思うので、当市の中（各主体、団体）の縦割りを打破して欲しい。

(3) 調査概要 4 4 頁 35

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日 時	平成25年11月12日(火)19時～19時56分	
場 所	弘前市役所本庁舎 新館6階 第1会議室	
出席者 (10人)	団体	(コミュニティ:4人) 特定非営利活動法人コミュニティネットワークキャスト
	委員	(3人) 佐藤淳委員、福士委員、阿部委員
	担当	(3人) 三上市民協働政策課長補佐、工藤係長、櫻庭主査
団体に対する中間報告書の内容説明		平成25年11月12日(火)、一括説明
調査概要		
(※ 市民協働政策課長挨拶)		
(※ 1 趣旨説明)		
(※ 2 出席者紹介)		
1 開会		
2 意見聴取		
(1)・1	・NPO法人は、儲けを配当できないだけで、どこもある程度の営利がないと活動ができず、会を存続できないものであるため、中間報告書13頁の主体のコミュニティ、NPO法人の捉え方で、恐らく分かり易くするためだと思うが、営利を目的としない団体といった記載はいかがなものかと思う。	
(2)・2	・ある方が自治基本条例に反対しており、その理由が市民の意見を吸い上げるというものの、中には言えない人もいて、声の大きい人だけの意見が取り入れられるのではないかという危惧があるというものであったので、その辺はどうなのかと思う。	
⇒(1)応答・3	・主体のコミュニティの「営利を目的とせず」の部分は、特定の社会問題、地域の課題に関して取り組まれている団体といったような表記に直した方が誤解を生じないと思う。	
⇒(2)応答・4	・基本原則の方針④で、市は参加しやすい環境づくりに努めるとしているので、できるだけ広く意見を聞く機会を設けながら進めるなど、そういった仕組みの部分でも工夫しながら取り組むことになると思う。	
⇒同上・5	・このような条例が無ければ、逆に、声の大きな人の意見が勝手に通る可能性も有るので、どんな人でも参加できる、そういう環境を市が作っていくということを条例で定めた方が逆にいいと思う。	
6	・どうしてもこういった条例は、そんなに具体的に書けないので、ある程度抽象的な形にならざるを得ない部分があると思う。	
7	・主体に学生と子どもが枠付けられて入っているのが、学生のまち弘前、そして最近のいじめ防止条例もそうだが、子どもを大事にしようとする市の姿勢が表れていると感じた。	
8	・ただし、子どもだけが権利という受け身のニュアンスになっていて、まちづくりにおいて子ども達のために手を差し伸べることも必要だが、積極的に意見を吸い上げると書いており、現に子ども議会とか、意見を吸い上げる機会があると思うので、むしろ、役割として、子ども達もまちづくりに参画するようなニュアンスを出した方がいいと感じた。	
(3)・9	・学生は、半分以上が県外から来て、4年程度で県外に去っていくが、その間に、弘前のまちを好きになってもらいたいとか、住んでよかったなという思いを持っ	

- てもらいたかったので、学生から吸い上げるだけでなく、企画とか参画意識を持たせるようなものを与えていくことも大事であると感じた。
- ⇒(3) 応答・10 ・ ご意見を参考にさせていただき、今後、委員会で審議してみたいと思うが、学生に対する取組は、市の方から説明願いたい。
- ⇒同上・11 ・ 学生に対する取組は、市としても重要視しているが、中間報告書では、市民力等の推進という項目の方針①で、既存のシステムである「学都弘前」学生地域活動支援事業を今後も続けて欲しいという思いで、それをイメージさせる内容としたところである。
- (4)・12 ・ 今後、弘前に住んでいた学生たちが別の色んなところに住んで、弘前のまちでこういうのをやっていたとか、いいとこだよということを言ってもらえるようなまちづくりにしたいというのがあって、学生の企画で、市民みんなでまちづくりをするだけでなく、学生にも意識付けたいということを感じていた。
- (5)・13 ・ 学生の件については、4年間であっても居るうちは弘前市民であるということをちゃんと位置付けて、市外の人でも主体であるということをしっかりと本人たちに伝えないと、学生もその気にならないと思う。
- (6)・14 ・ 「協働」という言葉が最近では珍しく、分かりにくいのかなという感じを受けたので、題名も市民の方に分かり易く、「弘前市民参加」としても読めると思った。
- (7)・15 ・ 「まちづくり」という言葉は、色んな意味付けができる言葉で、しかも、市民と密着した基本条例みたいなものでまとめているようなので、例えば、中間報告書にある市民の幸せな暮らしというものを実現するためのまちづくりということが、分かり易く出てくると、市民の方にも浸透しやすいと思った。
- 16 ・ 「幸せな暮らし」という表現も抽象的であるが、その時代時代での幸せな暮らしというのは、恐らく出てくると思うので、現在の表現が非常にいいと感じた。
- 17 ・ ボランティアにも期待されている部分があると思うが、ボランティアの問題として、常々参加していると長続きしないということがあるので、NPOを市民参加の場として捉え、もっとNPOにも参加してもらおうということにならないかと思った。
- ⇒(6) 応答・18 ・ 「協働」という言葉の内容は、基本原則の項目にある協働の原則という部分で、ある程度の意味合いを記載してあるが、実際の条例を作る際は、これからの審議にもよるが、定義というところで、明確にしながら作っていくことになると思う。
- ⇒(7) 応答・19 ・ 「まちづくり」という言葉については、委員会の中でも、捉え方を共通のものとして議論を進めていこうといった意見などが出ていたが、その言葉に関する意見も委員会へ伝えるものとする。
- ⇒(6) 応答・20 ・ 参加と協働は、ニュアンスが違っており、行政の方で市民参加というと行政が上、市民が下で参加してくださいというもの、協働は、上下関係ではなくて、行政と市民が一緒にやるというもので、行政学では5年くらい使われている言葉だが、市民にとっては、まだ聞き慣れない言葉なので、分かり易く伝えられるようなことが必要であると思う。
- ⇒(4)(5) 応答
・21 ・ 主体について、委員会で議論した際、弘前は、学生が多いまちだから、主体に入れるとなったものであり、全国でも他にはないと思うが、そうなると、条例でうたったので、行政では、学生に対して主体であることを理解してもらおうようにしっかりと取り組まなければならなくなると思う。
- 22 ・ 学生のときだけ住んでいてもらえる人は、通り過ぎていく人であるが、それを敢えて主体に取り込むというのが恐らくユニークな部分だと思うので、そこに力を入れて取り組んでいった方がいいと思う。
- 23 ・ 今までまちづくり活動をしてきた中では、自分たちが主体で、あとは参加・協力

- していただくイメージのものから、協働的な意味合いが本当に強くなったと感じており、そういう意味では、対等な立場で様々なことができるということと、参加ではなくて、参画したい方が多いと感じたので、この内容については共感できる部分であると思う。
- 24 ・ 協働は、経営でも出てくる言葉であって、意味合いは理解できるが、逆にクレーマーも出てくる気がするので、口だけを出す人ではなくて、しっかりと働く人じゃないと言う権利がないということを込めて、協働の意味を強くうたっていただければと思う。
- 25 ・ 学生の件では、他都市の人に、結構今の若い者も捨てたもんじゃないと言われたことがあるが、弘前で参画している学生は県外の人が多く、やや寂しく感じているので、その部分は、今、子どもの頃から一生懸命教育しており、そういう意味では、先生の役割があってもいいと思ったことがある。
- 26 ・ 自分がしている活動の中で、学生が楽しんでいるのは、学生だけではなく、社会人も一緒に活動しているというのがあるのではないかなと思う。
- 27 ・ まちづくりに地元の学生が少ないのは、恐らく子どもの頃から当たり前にあるものなので、そこに参画するということを思い付かない、思わないようで、地元でない人は、初めて見るし、参加できるのが新鮮なようで、そういう意識の違いかなということを感じる。
- (8)・28 ・ 参加していない大人を見ている子どもは、参加しなくてもいいものだと思ってしまうというのものもあるし、例えば、町会には、自分もあまり参加していないが、組織自体の高齢化でコミュニティとしての機能を果たしているのかという問題があるので、コミュニティの役割に町会の記載はあるが、町会そのものの1つのテーマになるという感じがする。
- ⇒(8)応答・29 ・ 以前は、町会で運動会などを行っていたが、今は、ほとんどやっておらず、つながりが段々薄れてきている現状であり、組織としても問題提起されているところであるが、現在、エリア担当制度が実施され、行政と一緒に取り組んでいるので、一生懸命、根気強く取り組めば、これからは変わってくるのではないかと期待している。
- ⇒同上・30 ・ 他団体の意見聴取においても、町会の加入率が低い、高齢化により活動的でないという意見が出ており、市、この委員会ともに、すごく問題だと思っていて、市では、エリア担当制度など活性化に向けた事業も行っているが、この条例で主体の1つがコミュニティで、その中の重要な部分が町会であるということをきっちりとうたうことで、町会を活性化するための取組を行政がやらなければならないと思う。
- ⇒同上・31 ・ 町会は、役所の下請けのような部分が無きにしも非ずという感じだが、町会の中の組織である保健衛生や青少年の健全育成など、色々と活動しており、子どもの数が少ないため、大人が目立つ部分があることから、学校と一体になるように、地域の方は、できるだけ学校に集まったり、学校行事に応援したり、町会としての努力もしている状況である。
- ⇒同上・32 ・ 先ほどの下請けのような町会であれば、協働でも何でもなく、上下関係であるので、それをもう少し対等な関係にしていこうというのも大事なところかなと思う。
- ⇒同上・33 ・ 特に子どものイベントで言うと、町会、連合会、公民館それぞれが実施して子どもが集まらないといった状況なので、一体となって、地域や町会でできないような規模で実施して、普段の世代間を超えたふれあいといったことは、地域に任せられる形で仕分けすれば、動きやすいと思う。
- 34 ・ 町会は、非常に歴史があって、今まで積み重ねてきたものがあるが、自発性とい

うか、ここで改めて町会の捉え方というのが必要であるとともに、町会は、大事なコミュニティであるという意識も大事だと思った。

- (9)・35
- ・以前、行政や町会連合会など、様々な団体が一緒になってまちづくり活動をしたことがあり、そういう機会があれば、違う世代の方とも知り合えるし、学生も、様々な団体と交流ができたようだったので、行政で色んな事業を行ってはいるが、例えば、一部分を町会連合会で企画したり、NPOも参画したりといったことができれば、この条例の実効性が上がる気がするので、是非とも当市の中の縦割りを打破して欲しいと思う。

- ⇒(9)応答・36
- ・行政は、町会やNPOに対し、まちづくりに参加してと言うだけでなく、主体間の連携では、連携できる場を市が用意するといった支援もやるべきといった意見が委員会でもあり、逆に主体間で連携して、連携を支援するという条文になれば、なぜ市は、条例にあるのにしないのかとなるし、特に協働のまちづくりを進めていくのは、市民だけでなく、行政にそういう気持ちが無いとできないと思うので、今の意見も委員会へ伝えたい。

(出席委員の感想等 省略)

3 閉会

中間報告書に対する意見
(公益社団法人弘前法人会)

※ 本意見の作成・文責 弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課

○ 意見No.1

(1) 箇所 【一頁】全体

(2) 意見

全体的な印象に関する意見は、次のとおりである。

ア 中間報告書を読んだときの第1印象としては、分かりづらいというか、全体的に硬いと感じた。

イ 文章が硬いのはいい（しょうがない。）。

(3) 調査概要 49頁18・24

○ 意見No.2

(1) 箇所 【5頁】Ⅲ1 前文（この条例の前文の例）

(2) 意見

ア 中間報告書の内容からは、弘前らしさが伝わってこないもので、例えば、弘前大学との連携や桜のまちというものがまちづくりの基本（この条例）の中に全く入っていないことに非常に疑問を感じた。

イ この条例の前文の例4段落目は、②まちのあるべき姿に関する内容となっているが、その中の「まちづくりの担い手を育成する」という部分について、子ども、学生を育成するためにどうするのかということが見えるものがあれば、分かりやすいと思う。

ウ この条例を制定したときに、みんなでどういう風に動き、この条例を遵守し、周知していくのかということが分かりづらく、みんなで弘前をいいまちにしようと、そのための条例であるというものが出てきていないので、事業者、市民、議会もみんなでまちづくり、いいまちをつくるという目的性がより前に（強く）出てきてもいいと思う。

エ 市民全ての力を集めて、お互いに力を持ち寄って、弘前市を良くしようということにこの条例の基本があると思うので、それが真っ先に出てきてもいいと感じた。

(3) 調査概要 49頁20、50頁28・31・33・35

○ 意見No.3

(1) 箇所 【8頁】Ⅲ2(2) 定義《方針》

(2) 意見

(2頁)「協働」という用語の意義に関する意見は、次のとおりである。

ア 言葉は、受ける側により、色んな意味や思惑が生まれる可能性があるもので、前文の中や注釈において、ある程度具体的な内容で記載しておいて方がいい。

イ 特定の条文が問題ではなくて、協働を基に、どのようにしてこの条例が動いていくのかという部分が読みづらく、第1印象では、協働とは何だろうと感じたものである。

協働がみんなで共に働きましょうということであれば、誰かがある程度先導して、その目的に向かっていく方がスムーズに進むような気がする。

ウ 協働という言葉は、内容が凝縮されているので、分かっている人は、その言葉を使うと、みんな分かったような気がするが、言葉の意味となると、分かっている

る人でもすぐ出てこないという非常にグレーな言葉だと思う。

エ 協働は、全国の条例においても使われているが、コラボレーション、パートナーシップという英語の方が一般的で馴染みがあり、協働という言葉は理解し難いので、もう少し具体的にする必要があると思う。

オ この条例の中で、協働の主体がはっきりしておらず、分かりづらいといったことになっていると思うので、行政の市民もいれば、会社、NPOの市民もいて、みんなが市民であるということを記載すれば、分かりやすくなると思う。

(3) 調査概要 48頁4・10、49頁13・19、51頁39

○ 意見No.4

(1) 箇所 【8頁】Ⅲ2(2) 定義<解説>

(2) 意見

(8頁)「市民等」という表現は、まちづくりの主体の中にも出ておらず、何を指すかの記載もなく、分からなくなると思うので、具体的に何を指すのかを記載した方がいいと思う。

(3) 調査概要 51頁40

○ 意見No.5

(1) 箇所 【11頁】Ⅲ2(5) 基本原則<方針>

【26頁】Ⅲ5(1) イ 財政運営<方針>

(2) 意見

中間報告書には、色んなことをやりましょうということが非常に多く書かれているが、それを実現するために必要な裏付けとして、自らの税収入、その他の収入で賄う自主性、独立性という基本の原理原則について、記載があってもいい。

(3) 調査概要 48頁5

○ 意見No.6

(1) 箇所 【15頁】Ⅲ3(2)ア 市民の役割等<方針>③

(2) 意見

安全に暮らしていける権利については、自分が役割を果たした後で受けられる(享受できる)ものが安定した生活であって、最初から享受する権利を与えられているわけではなく、その権利を逆手にとって振りかざしてくる場合も有り得るので、できれば排除しておかなければならないと思う。

(3) 調査概要 49頁24、50頁25

○ 意見No.7

(1) 箇所 【17頁】Ⅲ3(2)ウ 子どもの権利<方針>

(2) 意見

ア 主体の役割等において、子どもに権利という言葉を使っているが、これから成長していく子ども達にとって、今から権利という言葉を植え付けていいのか疑問であり、むしろ、健全な子どもを育てるためには、社会における役割を果たすように位置付けた方がいいと思う。

イ 子どもの権利は、逆手にとって勝手気ままに振りかざしていいというわけではなく、できれば排除しておかなければならないことから、権利ではなく、その前段の与えられた役割を果たした上で、まちづくりに参加できる、参加される場が与えられるといった表現にできないかと思った。

(3) 調査概要 48頁3、49頁24、50頁26

○ 意見No.8

(1) 箇所 【19頁】Ⅲ3(2)オ 事業者の役割《方針》

【7頁】Ⅲ2(1) 目的《方針》

(2) 意見

ア 事業者は、自分たちの事業を発展させ、利益を生んで、納税や地域での経済活動に貢献するなりして、そういった中から社会貢献、災害時の役割、社員への厚生等が実現できるものであり、本体がぐらついていては何もできないといった面からいうと、目的の中に、弘前市の総合的な活性化といった意味合いも入っても良かったのではないかと。

イ 事業者の役割として1番重要なものは、雇用の維持確保であり、それを確保した上で、労働者に対する安定した収入を保証していくことだと思う。

(3) 調査概要 48頁6、49頁15

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日 時	平成25年10月30日(水)15時28分～16時40分	
場 所	弘前市役所本庁舎 新館6階 第1会議室	
出席者 (11人)	団体	(事業者:4人) 公益社団法人弘前法人会
	委員	(3人) 工藤委員、柴田委員、島委員
	担当	(4人) 櫻田市民協働政策課長、白戸主幹、工藤係長、櫻庭主査
団体に対する中間報告書の内容説明		平成25年10月21日(月)ほか、個別説明
調査概要		
(※ 市民協働政策課長挨拶)		
(※ 1 趣旨説明)		
(※ 2 出席者紹介)		
1 開会		
2 意見聴取		
1	・今回、中間報告を拝見して、非常に市民の側、立場から作った報告だと感じた。	
2	・権利やその行使、色んな方への要求など、そういった視点の中身が多いと思う。	
(1)・3	・子どもの項目に、権利という言葉を使っているが、これから成長していく子ども達にとって、その言葉を今から植え付けていいのかどうか疑問であり、むしろ、社会における役割を果たすためのそういう位置付けの方が、健全な子ども達を育てるにはいいと思う。	
4	・協働という言葉そのものについての具体的な定義付けがなされていないが、言葉は、受け取る側により色んな意味、思惑が生まれてくる可能性があるもので、前文の中なり、注釈なり、ある程度具体的な内容で、記載しておいた方がいいのではないかと感じた。	
5	・中間報告書には、色んなことをやりましょうということが、非常に多く書かれてあるが、それを実現するために必要なこと、実現する裏付けとして、自らの税収入、その他の収入でもって賄う自主性、独立性という基本の原理原則についての記載があってもいいのではないかと感じた。	
(2)・6	・事業者としては、自分たちの事業を発展させ、利益を生んで、税金を納めるなり、地域での経済活動に貢献するなりして、そういう中から社会貢献、災害時の役割、社員への厚生等が実現できてくるわけで、本体がぐらついていては、何もできない。そういった面からいうと、弘前市の総合的な活性化といった意味合いも、目的の中に入っても良かったのではないかと感じた。	
⇒(2)応答 ・7	・事業者の役割について、今の意見を踏まえながら、練り直し、見直していかなければならないと思う。	
⇒(1)応答 ・8	・役割の裏付け、子どもの関係についても、見直していかなければならないと思う。	
9	・第一印象では、協働がピンとこないというか、何だろうなというように感じた。	
(3)・10	・どこの条文がどうこうではなくて、協働を基に、どのようにしてこの条例が動いていくのかという部分が見づらいというか、読みづらいという気がしており、みんなで共に働きましょうということで、何かを作ろうとすれば、誰かがある程度先導して、その目的に向かっていく方がスムーズにいくような気がする。	
⇒(3)応答 ・11	・中間報告書の11頁の方針①、協働の原則に記載のとおり、相互に補完して、特性を尊重するというのと、それぞれの役割に応じて、協働により取り組むとい	

- うことであるが、事前の内容説明の際には、協働の説明の中に、協働という言葉が出てくるのはおかしいのではないかといったご指摘をいただいていた。
- ⇒(3) 応答
・12
13
(4)・14
(5)・15
- ・協働という言葉などは、もう少し詳しく、解説のようなものがあれば、分かり易いと思うので、事務局で検討していただきたいと思う。
 - ・協働という言葉は、内容が凝縮されているので、分かっている人は、その言葉を使うと、結論が出た感じというか、みんな分かったような気がするが、言葉の意味となると、そういった人でも中々すぐ出てこないという非常にグレーな部分の言葉だと思う。
 - ・協働については、役所に対する要求ばかりではなく、自分たちでもやれることは、自分たちでもやってくださいということだと思う。その全国的な背景としては、行政だけでは手に負えなくなっているという行政の限界だと思う。
 - ・事業者の役割として、社会貢献とあるが、1番重要なのは、雇用の維持確保であり、それを確保した上で、労働者に対する安定した収入を保証していくことだと思う。
- ⇒(4) 応答・16
- ・条例制定の背景、必要性に関しては、委員会では、自治とは、本来何なのかというところから始めて、やはり自分たちのやれることは、自分たちでやりましょうとなった。
- ⇒(5) 応答・17
- ・事業者よりも、議員や市長、職員がまちづくりをどう考えているのかなどについて時間をかけて議論して、委員会としては、誰が読んでもまちづくりのバイブルになるようなものに仕上げないといけないという思いがあるので、今の「雇用の確保が社会貢献の1つ」という意見等々を事業者の役割のところに盛り込んでいきたいと思う。
- (6)・18
(7)・19
(8)・20
- ・この中間報告書を読んだときの第一印象としては、分かりづらいというか、全体的に硬いなあと感じた。
 - ・全国の条例においても、協働という言葉は当然使われているが、英語では、コラボレーション、パートナーシップというようで、その言葉の方が、今では一般的に使われており、我々にとっては馴染みがある。協働は、私たちも理解し難いので、もう少し具体的に詳しく書く必要があると思う。
 - ・中間報告書を見た限りでは、弘前らしさというものがほとんど伝わってこないもので、例えば、弘前大学の連携に関しては、どういう風にしていくのかとか、桜のまちという全国でも知らない人はいないにもかかわらず、まちづくりの基本の中に全然入ってきていないというのが、非常に疑問を感じたところである。
- ⇒(6) 応答
・21
- ・中間報告書の文章が硬いという件については、これまでの委員会での議論では、非常に柔らかい言葉で議論してきたが、この内容を条文に移しやすいように表現したものであり、この中間報告は中間報告として、別な時期に、もっと分かり易い、こういう主体でまちづくりを考えていこうといったものを取り入れたような概要版が必要だと思う。
- ⇒(8) 応答
・22
- ・弘前らしさについては、前文でその文章が長くならないように配慮しながら、当市の特徴を的確に捉えた内容を凝縮した形で盛り込んだが、桜とか特性のある部分は、例示で書く方法もあると思うので、今後の委員会の中で議論して、反映させていければと考える。
- ⇒(7) 応答
・23
24
- ・コラボレーション、パートナーシップの件についても、そういった件であったということを委員会へ報告したいと思う。
 - ・文章が硬いのはいいが、ある意味これは法律なので、その内容については、逆にそれを逆手にとって振りかざしてくる場合も有り得るので、そういった内容をできれば排除しておかなければならないと思う。

- 25 ・それが権利という言葉であって、市民の役割等の安全に暮らしていける権利については、権利だけの問題ではなく、自分が役割を果たした後で受けられる、享受できるものが安定した生活であって、最初から享受する権利を与えられているわけではないと思う。
- (9)・26 ・子どもの権利にしても、勝手気ままに振りかざしていいというわけではなく、与えられた役割を果たした上で、まちづくりに参加できると思うので、権利まで持っていないで、その前段の役割を行い、その上で参加される場が与えられるといったような表現にできないかと思った。
- ⇒(9) 応答
・27 ・子どもの権利については、確かに、条例にする以上、どう対応するのかといったこともあるので、委員会において、次の段階で、課題として議論してみたいと思う。
- 28 ・前文に盛り込むべき項目としている②あるべき姿に関して、前文の例では、その②の部分で、その中の「まちづくりの担い手を育成するとともに」という部分の「担い手」とは、子ども、学生ということで、そのためにどうするかという条文ではないと思うが、そこが大きく、何か見えるものがあれば、分かり易いと思う。
- (10)・29 ・(A 3 カラーの) 概要版の Q & A の 2 つ目、「なぜ、つくるの？」について、A の下から 2 行目に「人によって左右されない」とあって、ここで言う「人」は、トップということを事前に聞いて、条文になるわけではないが、この部分について、再度確認したい。
- ⇒(10) 応答・
30 ・条例の必要性を議論した際、その時の市長、また別な市長となっても、一貫して底辺にあるものをこの条例の中に盛り込んで、それから逸脱しないような形での条文を作りましようとなり、それが「人によって左右されないまちづくり」ということで、その指針となるものがこの条例という意味である。
- (11)・31 ・この条例を制定したときに、どういう風に動いて、みんなで守っていった、周知していくのかというのが分かりづらいと思う。
- ⇒(11) 応答
・32 ・あずましいまちをつくるために、例えば、今盛んにカラスが飛んでいるが、その対応が無理というのではなくて、排除に向けて、みんなで努力していこうというのが協働であり、市民の意見も反映させながら、それぞれの役割分担によってしっかり議論しながらまちをつくっていこうというようなまちづくりの原点を書いているのがこの条例だと思う。
- (12)・33 ・そういう意味では、みんなで弘前をいいまちにしようと、そのための条例なんだという部分、そういう色が出てきているのかとを感じるので、事業者も、市民も、議会もみんなでまちづくり、いいまちをつくるんだという目的性が、より前に強く出てきてもいいと思う。
- ⇒(12) 応答
・34 ・それが前文の例の最後の段落であるが、その中の「協働のあり方を具体化したまちづくりの仕組みなどを明らかにし、その仕組みに基づく継続的な取組により・・・」という表記に、ちょっと足りない部分があるんだと思う。
- (13)・35 ・市民全ての力を集めて、お互いに力を持ち寄って、弘前市を良くしようということにこの条例の基本があるんだと思うので、それが真っ先に出てきていいと感じた。
- ⇒(13) 応答
・36 ・前文をもう少し分かり易く書いた方がいいかもしれない。
- (14)・37 ・協働の主体というのを調べたら、市民であるという書き方もしているが、今回のこの条例は、どういった形の協働なのか。
- ⇒(14) 応答
・38 ・中間報告書の 8 頁に図解しているが、市民は弘前市民、住んでいる人で、弘前市民だけではなくて、他から通っていたり、範囲を広げているのが市民等という主体で、弘前の特性である学生ももっとまちづくりに参加させようということ思い

	で含めている。
(15)・39	・協働の主体というものが、この条例の中で、今一つはっきりしておらず、非常に分かりづらいなどといった議論になってると思うので、その辺をもう少し明確に、具体的に、要するに、みんなが市民、行政の市民もいれば、会社、NPOの市民もいるということを書ければ、分かり易くなると思う。
(16)・40	・中間報告書の9頁、条例の位置付けの方針の中に、市民等という表現があるが、まちづくりの主体の中に出てこないし、何を指すか記載がなければ、分からなくなると思うので、具体的に何々なのかということを記載しておいた方がいいと思う。
⇒(15)(16) 応答・41	・先ほどの協働や市民等という用語は、実際の条例では、定義の部分で誤解を与えないように解説することになると思うが、この報告書上は、8頁に定義という項目があつて、そこでは、定義は、あくまでも技術的な部分なので、一端、執行機関に預け、条文化されたものを確認するというようにしている。
⇒(16)応答・ 42	・市民、学生の範囲等は、委員会で十分議論したので感じなかったが、確かにその定義の部分は、分かりづらいと思う。
(17)・43	・中間報告の中に、農業振興だとか、地産地消みたいなものが入らなくていいのか。
(17)・44	・弘前と言えば、りんごというキーワードも必要なんじゃないかという気もする。
(17)・45	・弘前の源は、りんごと米であると思うので、それが入って分かり易くなると思う。
⇒(17)応答 ・46	・委員会の会議が始まった頃、弘前を良くしていくにはどうしたらいいのかということで、色んな意見を出してもらったが、その中で、農業の活性化や経済に関するご意見が出されたが、結果的には、その件を議論していく中で、そういった各分野に関することは、個別の計画において、課題として捉えて解決していこうという流れになり、中間報告書には載っていないものである。
⇒(17)応答 ・47	・それと併せて、総合計画については、策定の義務はなくなったが、この条例の中では、今後も、市民の総合的な指針になる総合計画を作ることとしており、その中に経済活動なり、色んなものを取り込んでいくこととし、作るに当たっては、「市民との協働による」としたが、公募委員も含めた市民の意見もしっかりと聞いて作ってくださいという議論となったものである。
	(出席委員の感想等 省略)
3 閉会	

中間報告書に対する意見
(公益社団法人弘前青年会議所)

※ 本意見の作成・文責 弘前市市民文化スポーツ部市民協働政策課

○ 意見No. 1

(1) 箇所 【6 頁】Ⅲ 1 前文＜解説＞

(2) 意見

この条例の前文の例において、弘前の郷土愛を育むとあり、一方で、他の項目において、市外の人々、国等との連携という外とのつながりも盛り込まれており、市民としては、それらの関係性が分からず、つながる目的が薄らいでしまうため、「郷土愛を育む」の解釈としては、青森県への思い、国家への誇りを育むという背景があって、その中に、市外の人、国、世界とのつながり、さらには、世界平和というものが思いとしてあることから、市外の人々、国等との連携という項目を盛り込んだといったものにしてはどうか。

(3) 調査概要 5 8 頁 39

○ 意見No. 2

(1) 箇所 【8 頁】Ⅲ 2 (2) 定義＜方針＞

(2) 意見

(2 頁)「協働」という位置づけが難しくとらえられる部分が多いと思うので、「笑顔あふれるまちづくり」という言葉や、「笑顔で、みんなでつながりをもってやっていこうよ」というニュアンスを入れた方が受け入れられるという気がする。

(3) 調査概要 5 5 頁 4

○ 意見No. 3

(1) 箇所 【1 1 頁】Ⅲ 2 (5) 基本原則＜方針＞①

(2) 意見

今後、様々な団体につながりを付けることが非常に大事であり、市域だけでなく、より広がりを持った考え方をしないとまちづくりができてこないと思う。

(3) 調査概要 5 6 頁 15・18

○ 意見No. 4

(1) 箇所 【1 1 頁】Ⅲ 2 (5) 基本原則＜方針＞②

【1 5 頁】Ⅲ 3 (2) ア 市民の役割等

(2) 意見

市民主体における市民の役割であるとか、主体性を持たせることを子どもたちや大人にどのように伝えていくのが難しいところだと思う。

(3) 調査概要 5 6 頁 19

○ 意見No. 5

(1) 箇所 【1 3 頁】Ⅲ 3 (1) 主体＜その他の意見＞a

(2) 意見

高齢化社会が進んで行く中で、お年寄りが笑顔でいないと、将来に不安を感じるのは、子どもたちであったりして、学生や子どもの裏腹にとっても大事なものは、お年寄りであると思うので、この条例の中に、お年寄りというキーワードも入らなければ、バランスのいい条例として長続きしないのではないかと感じた。

(3) 調査概要 56頁9・10

○ 意見No.6

(1) 箇所 【15頁】Ⅲ3(2)ア 市民の役割等《方針》

(2) 意見

まちづくりに意欲のある子どもは、自分からかかわりたいと思っているが、中には、そういったことを考えていない子どももいるので、小さいときから家庭で教える環境を作ってあげたいと思う。

(3) 調査概要 57頁20

○ 意見No.7

(1) 箇所 【18頁】Ⅲ3(2)エ コミュニティの役割《方針》

(2) 意見

ア まちづくりは、隣近所のつながりといったコミュニティから生まれるということも市民の人たちは意識されているので、特別な取組をしなくても、何か当たり前のことをやるだけでいいのかなという気がする。

イ 町会では、以前、会館に子どもが集まって、年配の人が遊び方を教えたり、絵本を読んだりという環境があって、その中で子どもが育っていたという面があったので、地域の小さいコミュニティをより大事にしていた方がいいと思う。

(3) 調査概要 55頁3、57頁21・22

○ 意見No.8

(1) 箇所 【20頁】Ⅲ3(2)カ 議会等の役割《方針》

(2) 意見

弘前の将来は、市民、議会、執行機関の3者が全て歯車のように回らないと進んでいかず、この条例を定めることによって、お互いの足りない部分が見えてくるとし、議員の方々との協働の必要性も感じて、その協働がうまく図ることができれば、弘前のまちも一気に前進していくのではないかという感覚がある。

(3) 調査概要 55頁6、56頁12

○ 意見No.9

(1) 箇所 【22頁】Ⅲ3(2)キ 執行機関等の役割《方針》

(2) 意見

市民力等の推進で、エリア担当制度について謳われているが、単に町会の係となるのではなく、職員の質の向上を図り、本当の問題点を解決していくために、執行機関としての情報のやり取りという役割にしっかりと重みを持たせて配置していくのも必要になると感じている。

(3) 調査概要 56頁11

○ 意見No.10

(1) 箇所 【40頁】Ⅲ5(2) 住民投票《方針》

(2) 意見

ア この条例の重要なところは、条例の位置付け、そして、議会と執行機関のつながりであり、住民投票の項目では、いつ、どこで、何のためにということをより明確にして、この条例自体がまちづくりにおける希望や夢につながるようなものになれば、前文の「笑顔あふれるまちづくり」につながっていくという気がする。

イ 議会は、市民から出た意見を吸い上げることが役割としてあって、それが選挙につながると思うが、選挙は数年に 1 回であるため、住民投票といった部分でも、評価できる場があれば、市民・議会・執行機関は、うまく回っていくような気がする。

(3) 調査概要 58 頁 37、59 頁 40

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日 時	平成25年12月3日(火) 15時30分～16時38分	
場 所	弘前市役所本庁舎 新館6階 第1会議室	
出席者 (12人)	団体	(事業者:4人) 公益社団法人弘前青年会議所
	委員	(4人) 工藤委員、柴田委員、島委員、蟻塚委員
	担当	(4人) 櫻田市民協働政策課長、工藤係長、櫻庭主査、佐藤主事
団体に対する中間報告書の内容説明		平成25年12月3日(火)、一括説明
<p style="text-align: center;">調査概要</p> <p>(※ 市民協働政策課長挨拶)</p> <p>(※ 1 趣旨説明)</p> <p>(※ 2 出席者紹介)</p> <p>1 開会</p> <p>2 意見聴取</p> <p>(審議の経過、条例の必要性等について概要説明 省略)</p> <p>1 ・ 当会では、どんなまちづくりがしたいか、どのような弘前になって欲しいかということについて、日常の考え方、持っている市民の意見、イメージを吸い上げようということで、まずは、おじいちゃんから若い連中まで広く集めて、弘前コミュニティミーティングという事業を2年間開催した。</p> <p>2 ・ その時の意見で多かったイメージは、土手町や駅前だとか、今までの外型コンパクトシティだとか、色んな軸の話があるのだろうが、まちづくりというよりも、昔ながらの弘前というイメージが結構強いように感じた。</p> <p>3 ・ 例えばりんご畑があり、その周りで子どもたちが笑い、隣近所のおじいちゃんおばあちゃん、そんなつながりを持ちながら、そのコミュニティから生まれるのがまちづくりであるということも、市民の人たちは、すごく意識されていて話題にもなり、意外に特別な取り組みをしなくても、何か当たり前のことをやるだけでいいのかなという気がした。</p> <p>4 ・ この中間報告書で、特別、この文字がダメだとかはないが、「協働」という位置づけが難しく捉えられる部分が多いと思うので、もう少し「笑顔あふれるまちづくり」とか、ニュートラルな言葉を入れたり、「笑顔で、みんなでつながりをもってやっていこうよ」というニュアンスの方が受け入れられるという気はした。</p> <p>5 ・ 当会では、市民が主役のまちづくりということで、色々な事業を若者なりにやりながら勉強してきたが、ようやく自治基本条例という形で、市民が主体となったまちづくりが始まってくることに、すごくドキドキするし、これからの弘前の歩みも非常に明るいのではないかと思います。</p> <p>6 ・ 市民、議会、執行機関の3者が全て歯車のようにしっかりと回らないと、弘前の将来が進んでいかないということで、市民は、まちづくりにおいて徐々にトレーニングされてきつつあるが、議会の方々とも一緒になっていく必要を当然感じてくるであろうし、お互いの足りない部分がこの条例を定めることによって見えてくると思う。</p> <p>7 ・ 行政にとっても自分たちに足りない部分というか、今後、大きな課題となる少子高齢化に関しても、解決すべきものが、それぞれ助け合っていないと、解決しないという実感が危機感として、より市民、議会、執行機関3者において明らかになると思う。</p>		

- 8 ・今までは、市民、議会、執行機関、それぞれが放任主義で、自分たちが良ければという感覚がどこかにあったのを市の一体感として進めようということで、とてもいいと思う。
- 9 ・学生、子どもを主体として位置付けて、若者に目を向けるのは非常に大事で、子どもたちも未来があるように行うのも大事だが、今後、お年寄りが溢れていく社会をみようとしたときに、本当にお年寄りが笑顔でいれるのかとか、もっと笑顔じゃないと、将来に不安を感じるのは子ども達だったりする。
- (1)・10 ・実は、この子どもや学生の裏腹に、キーワードとしてとても大事なものは、お年寄りであると、私達、若者としても、背景におかなければいけないと思っているので、この条例の中に、当然、お年寄りというキーワードも入らなければ、バランスのいい条例として、長続きしないのではないかと感じた。
- 11 ・市民力等の推進で、エリア担当制度について方針として謳われているが、単に職員を配置するだけであれば、町会長や町会の人たちの単なる係でしかないので、条例化を目掛けて、職員の質の向上、本当の問題点を解決していくために、執行機関としての情報のやり取りの役割にしっかりと重みを持たせて配置していくのも必要になると感じている。
- 12 ・先程も言ったが、議会の皆さんとの協調というか、それこそ協働がうまく図れれば、弘前のまちも、一気に前に開けて前進していくのではないかなという感覚でいる。
- 13 ・今年、市と連携して、Cross.Sという事業を11月に開催したが、我々、団体でできることが、本当に少ししかないということ、そして、つながりというのが本当に大事ななのというのがここ何年か実感している。
- 14 ・何をやるにしても、自分の会社を持っていたり、勤めながら、プラスアルファの事業をやるので、どうしても無理がかかっているというのが正直あって、やはり市民の人たちが、もっと集まりやすい環境を作ってあげないといけないと思う。
- 15 ・事業をしても、メンバーの家族が来るぐらいで終わる事業であれば、まちづくりと言えない気がしていて、もっと色んな団体が、今、弘前は、個々では出来てきているので、それにつながりをつけることが、今後、本当に大事で、極端な話、市だけではなく、東北であったり、より広がりを持った考え方をしないとまちづくりができてこないと思う。
- 16 ・学生の役割もあり、学生と子どもが分かれていて、非常にいいが、どうしてもまちづくりの場に学生だけを置くと、責任感が生まれにくく、能動的、主体的に来る学生は、責任感が出てくるが、行けと言われて来る学生は、ただいるだけという感じもあるので、この条例を作るに当たっても、やはり、あなたは何のためにやるんだよということをしっかりと考えさせた上で作っていかなければ難しいと思う。
- 17 ・今、市民と執行機関の連携が非常にうまくいっていて、いい動き、意思疎通もできているが、やはり議会となると、どうしても、まだ何をやっているのかなというのが、実感としてあるので、そこが、今後のまちづくりのキーワードになってくるのかなと思う。
- 18 ・仕組みづくりというのが本当に素晴らしいと見ていたが、その中で、つながりが大事で、当会でも色々なネットワーク、つながりを使って取り組んでおり、それがしっかりできていけば、自分たちの地域にも生かされるというか、そのネットワークを作ったからには、しっかり運営していくように、みんなでルールを守ってやっていけばいいと思う。
- 19 ・やはり、市民主体というところの市民の役割とか、市民に主体性を持たせる、そ

- れを子どもたちや市民、大人にどのようにして伝えていくのかが1番難しいところだと思う。
- 20 ・やる気のある高校生などは、自分でまちづくりに関わりたいというのがあるが、そうでもない子どもは、全くそういうことを考えていなかったりするので、小さいときから、例えば、自分が親父で、家でご飯を食べている時に、「弘前には、こういった条例がある。分かるか。」と一緒に見ながら教えたり、何かそういう環境を作ってあげたいと思う。
- 21 ・町会については、実際、何かイベントをしているのかといえば、あまり分からないし、例えば、昔で言えば町会の会館があり、そこに子どもたちが集まって、何か遊んだり、その中で、年配の人が、お菓子などを食べながら、遊び方を教えてあげたり、弘前ってこんなまちなんだって絵本読んだりという環境があったが、今はあまりない。
- 22 ・やはり、すばらしい大人、老人がいて、その中で、子どもは育ってくると思うので、その本当の地域の小さいコミュニティをもっと大事にしていっていい方いいと、自分の子どもたちを教育している立場で、最近つくづく感じており、その辺も当会の中で、色々やっていきたいと日々考えている。
- 23 ・これまでの話を聞いて、自分たち（委員）が頑張って作成した中間報告書に足りなかった部分ややはりそうだよなと感じた部分を話していただきたいと思う。
- ⇒(1) 応答・24 ・キーワードとして、お年寄りを挙げていただき、まさしくこれからの時代は高齢化で、特にその人口も増えるので、そのキーワードは確かになという感覚があり、バランスのよい条例づくりという意味で、すごくいいと思った。
- ⇒25 ・市民の中にある学生、子どもの役割で、いかに主体性を持たせられるかという人材づくりや環境づくり、その辺の仕組みが、今後、色んな方との協働で作られていくべきで、恐らく貴会、市、NPO、みんなで盛り上げて環境を作り、人材を作っていくと、ゆくゆくは、意欲ある子どもたちが育ち、市全体が盛り上がっていくという印象を持った。
- ⇒26 ・皆さんの話を聞いて、子どもや学生から老人のことまで、幅広く考えていて、今、農家が益々高齢化し、農家をやる人が本当に少なくなっているが、それは、農家だけではなくて、益々、これから老人が増えていくということで、その辺の将来的なことも考えているとつくづく感じた。
- ⇒27 ・弘前市の基幹産業は農業であり、その中でもりんごが主体であるが、それが今は大変な時代になっており、後継ぎがなく、畑を存続することが大変になっているところも、弘前市のまちづくりで、どう解決していかなければならないかという大きい課題である。
- 28 ・今までの役所は縦割りで、農林関係は農林部で、りんご作りや減反にしても国の指示を市民に行ってもらい、それを売って商工業になり、2次加工品を作り、商売が営まれているが、それも農産物が主体の面があり、弘前のまちづくりは、経済活動の中で生まれていて、皆さんが経済活動を担っていかなければならないと思うが、今までの意見の中で、笑顔のある老人が元気で歩いているまちという件について（委員から）意見をお願いしたい。
- ⇒29 ・福祉は、以前、施設に入所という考えがあったが、何十年か前からは、障がいがある人も高齢者も、地域の中で人間らしく暮らすことが本当ではないかという動きになり、そんな中、介護保険制度で福祉が変わり、介護報酬が絡み、現状、中々施設に入れず、自宅でも面倒を見る人がおらず、誰が救うのかとなってくるが、それは、狭い範囲での地域が目を見せるのが本当ではないかと町会組織の強化等に力を入れてお願いしている。

- ⇒30 ・この自治基本条例については、福祉というテーマもあるが、その他にも、常に地域の中で、みんながすぐに手を取り合える、自主防災組織のような、何かあったらすぐに声を掛け合えるネットワークができていているという部分を制度として作っていったらと思っていて、若い方からこういう意見を聞くことができて感動している。
- 31 ・福祉、経済、農業、建築関係などから見たまちづくりを委員会で議論し、中間報告書としてまとめたが、特徴の 1 つは、憲法のように前文があることで、条例は全部並列で、順位は付けられないが、その中でも、前文を付けたのは、この条例を基本として、色んな条例、規則を制定することを主張して載せたもので、結論としては、文章が長くなならないように 4 つの項目を的確に捉えた内容を盛り込むべきとしたものである。
- 32 ・その内容は、弘前のまちの歴史や文化、それから、まちのあるべき姿がどうか、また、一番重要なポイントとして、先程の「つながり」という意見もそうだと思うが、市民の主体性、あるいは市民、議会、執行機関のお互いの信頼関係の中での「協働」が必要だとし、最後に、条例制定の意義を載せるということでこの前文を作った。
- 33 ・(この条例の前文の例の内容説明 省略)、前文の中に、もっとこういう内容を載せた方がいいというものがあれば、教えていただきたい。
- (2)・34 ・今後、地域コミュニティという町会など、小さい単位から再生されていくと、その関係性が出来上がり、市民と執行機関との関わりもきちんと出来上がっていくと、議会の必要性が薄らいでくるのかもしれないと思うが、そこをきちんと噛み合わせて、必要な役割を担っていくために、この条例が無ければいけないので、議会のためにこれを制定するくらいの覚悟であってもいいのではないかなと思う。
- ⇒(2)応答・35 ・議会と市長は、車の両輪などというが、もはや両輪ではなくて、どっちにも倒れない三輪車、その 3 つがうまくいかないといけなくて、そういう関わりの中で、まちづくりをしていくべきというのが趣旨であり、そういう意味では、協働によるまちづくりの基本条例をこういう形で進めていこうという前文を、この機会にまずは、知って欲しいと思う。
- 36 ・最後に、委員会として、どのような形で、最後の仕上げをしてもらいたいかなどの意見があると思うので、この機会に我々に今後どういうことをやってもらいたい、委員に期待するところを、若い人の立場からの意見を聞きたいと思う。
- (3)・37 ・この条例の重要なところは、条例のポジショニング、そして、執行部と議会とのつながりという部分である気がしており、住民投票の項目もあるが、いつ、どこで、何のためにという部分がもう少し明確になって、この条例自体が、最後、市民の防波堤となっていくとか、まちづくりをしていて、こんな希望、夢があってという思いがつながるようなものになれば、前文の「笑顔あふれるまちづくり」につながっていく気がする。
- ⇒(3)応答・38 ・今、指摘のあった件は、総論であり、中間報告書にもあるが、市の政策の細かい事業は、総合計画に付託すべきで、自治法が改正になって、総合計画の基本構想の策定義務は無くなったため、この条例の中では、誰が市長になっても、短期、中期の総合計画はきちんと作ってもらい、その中で、細かいところをやっているものである。
- 39 ・前文では、弘前の郷土愛を育むとあり、他の項目では、市外の人々、国等の連携があって外とのつながりも盛り込まれ、前文とつながらなくなるため、前文の例は、そのままでいいが、その背景、解釈としては、青森県への思い、国家の誇りを育むという解釈があって、市内外の人との連携、国、世界とのつながり、世界

平和というのは、前文の背景の中に思いとしてあるから、その項目を盛り込んだという導き方を持っていないと、市民はつながる目的が薄らいでしまう感じがした。

- (4)・40
- ・議会の部分が気になっており、市民の代表であるからには、市民から出た意見を吸い上げて欲しいし、議会の役割でもあるので、それが、選挙につながっていくと思うが、選挙は、数年に1回なので、極端な話、住民投票の部分で、成績ではないが、うまく評価できる場があれば、3つ（市民・議会・執行機関）は、うまく回っていくような気がする。

- ⇒(4)応答・41
- ・議会の役割という部分がしっかりしないと、この条例の骨格がなくなってしまうという思いで、もっと開かれた議会であるためには、もっと情報を発信してほしいなどの議論をしており、ようやくFMで一般質問を取り上げたが、発信方法はもっとあると思う。

- ⇒同上・42
- ・議会は開かれてきたが、政策提案と、積極的に情報提供し説明責任を果たしてもらうためにも、条例が施行されて、検証する委員会を1年に1回、この条例がしっかり管理され、うまくいっているのかを第三者機関を作って検証することが必要だと議論してきた。

- 43
- ・前文を見て、改めてこの弘前がいいと思っていて、自分が弘前に住んでいて、こういう感じでまちづくりに少しでも関われたことに本当に感謝しており、今後も、当会としても、個人、会社としても、こういう機会あれば積極的にに関わり、自分もしっかり学んで、できれば検証のときにも関わられるようにもっと勉強していきたいと思う。

(出席委員の感想等 省略)

3 閉会